

中央・山手ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
色内小 6月4日	<p>このプランの一番初めに、これはあくまでも教育委員会の方でたたき台として分かりやすいように示されたものだということと言っていたのだが、どうも聞いていくとこれしかないんだよと、最終的に詰められている気がする。</p> <p>1 その中で、本当にこれはたたき台であって、こちら側が、ここはおかしいのではないか、こういうところは子どもの安全は的確ではないと思うという部分で、ここに住んでいるので、冬場の車の流れとか色々なことがとても良く分かる親として、考慮していただけるかというのが一点、お答えいただきたい。</p>	<p>今日お配りしている冊子の表紙をめくっていただくと、この資料はということで、先ほどお話しさせていただいたとおりのことを書かせていただいている。今お話しさせていただいたとおり、実際に統合に向けていく場合に、子どもさんの安全の面などの部分については、この資料にも書いてあるとおり、地域の皆さんとお話をしながら最善の方法というのをもちろん取っていきたく思っているので、何が何でもこのプランでというようなことではなく、皆さんからご意見をいただきながら、協議して進めていく考えでいる。</p> <p>結論から言うと、たたき台だ。プランそのものは、この色内小学校の部分、三つのものを出した。まだ皆さんの方からもここはこうした方がよいのではという意見もあると思う。あるいは、このプラン1とプラン5を組み合わせるといふ部分、部分を、簡単に言うとプラン2の薄緑のところはこっちでよいのではないかと。そういう部分もあると思う。まずは、固定したものではないということ。それは前提。私ども、今担当が説明した中で、稲穂小学校が適切という言葉を使っているが、その部分を言うべきか、言わないべきか。このプランだけをお示して、それでどうかということも一つの出し方としては内部では考えた。昨年、色々な場所で説明した中で、一定程度教育委員会の考え方も示さないと中々議論が進まないのではないかと。皆さんどれでも良いです、というわけにはいかないから。そういった意味で、現状、この懇談会に参加している今の時点で、教育委員会としては、ここの学校が適切だという考えを持っている、ということで理解していただきたい。</p> <p>一つは、このプランの他にもプランがありうるのではないかとのご意見もいただきたい。言っていたが全然構いません。このプランだとこの通学路の安全対策、例えば、今言われたとおり、ここはこういう危ない面があるとか、私どもも一定程度は道路とか見えています、地域に住んでいる方ほど知らないわけですから、そういった部分の指摘もいただければと思っています。</p>
		<p>ブロック、組み合わせの考え方、冒頭で申し上げたとおり、5ページのところに図1で書いているが、国道を基点として横に見た場合に、国道から下でいうと、色内小学校と量徳小学校という非常に幅が、両サイドに離れてしまうことがあります。そのような部分から、図2で示した3分割するということにしたもの。</p> <p>稲穂小学校の校区については、プラン1とプラン2では稲穂小学校はそのままということになりますが、プラン5をとった場合には稲穂小の校区についても違う学校との再編をしていくという、プラン1、プラン2に比べると稲穂小の校区は小さくなるというプランを作っている。</p>

中央・山手ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
色内小	<p>2 どうもプランを見ていると、校区の色を見ていると、稲穂小学校の校区がずいぶん広いと感じる。色内小学校の校区は稲穂小学校に比べるとあまりにも狭いのではないかと思うが、色内小学校のプランを三つ示していただいているが、稲穂小学校が分かれるというプランの考えはないのか。何か、フェアじゃないような気がする。どうもそこが納得できません。</p> <p>それと噂なので、分からないのですが、稲穂小学校を中心とした場合、稲穂小学校の周りの子どもさんよりも、校区が広くなった、広い、遠いところから来ているお子さんの数の方が多いのではないかと聞いていますし、また、色々他の校区で、いろんなことがあったら全部稲穂小学校に来ているという噂も聞いていますが、母親としてそういう部分、稲穂小学校を残す意味といったらおかしいですが、そこら辺をお答えいただければと思います。</p>	<p>稲穂中心で考えているのではないかというご質問だったかと思う。私も、稲穂小の校区を絶対いじらないということを考えているつもりはなく、今日お示しているプラン5の部分では稲穂小校区が分かれる、西陵中校区を一つの小学校校区として考えているプランなので、稲穂小は分割されているプランだ。稲穂小校区に手をつけないという考え方はない。ただ、稲穂小を統合校として選択するという観点からは、校区の件は置いておいても、統合校として稲穂小の校舎を使いたいという私どもの意図からすれば、稲穂小学校は市内の小学校の中で一番新しい学校だということもあるので、施設の状況からすれば稲穂の施設を使わないという選択肢は、正直に言って持っていない。今回、前段担当が説明した部分でも、一つは統合校の人数がどのようになるのか、そこを統合校とした場合、それぞれの地域からの通学路はどうなるのか、施設状況はどうなのか、そこは今回の学校再編をする場合の一つの大きな要素として私どもが考えているのは事実だ。</p> <p>ご意見の特認で稲穂小学校によその校区からいっぱい来ているのではないかとのことだが、具体的に稲穂小学校のことを話すのが、特認というのは出ていく場合も、入ってくる場合も両方ある。稲穂小の例では、稲穂の校区から違う学校に行くお子さんは20人いる。逆に、他の校区から来ているお子さんは51人いるので、出入りで考えると稲穂小で受け入れている方が圧倒的に多い状況にある。もちろん、教育委員会としては一定の基準をもって、それぞれの基準に要件が合うか判断しているわけだが、稲穂はお店などがたくさんある地域なので、学校が終わった後、お店に帰るといっても割と多い理由となっている。51人のうち、21人が緑小学校校区のお子さん。緑小の校区というのは、商大の方の山から続いているし、昔お蕎麦屋さんがあった緑1丁目付近は緑小校区ですが、稲穂小の方が通いやすいという、緑小と稲穂小の関係からいけば緑小から来るお子さんが多いという結果。無原則に稲穂小に入れているというわけではないので、そこは理解いただきたいと思う。</p> <p>今の話で色内小の校舎が古い、新しいということが出たが、資料の3ページの小学校の概要のところ、色内小学校は昭和32年の建築、稲穂小学校は平成7年、8年ということで15年くらい経っている学校ということで、小樽市内で一番最近建てた小学校ということになる。比較の部分では、14ページ、15ページ、16ページのAグループを見ていただきたい、①というのが色内小学校の留意点になる。②は稲穂小の統合を考える場合の留意点。何項目か示しているが、できるだけ公平に、客観的に色々なデータをこのような形で記述している。今日は時間もないので、改めてご覧いただければと思う。今日は、何かを決めるという会合ではないので、あとでじっくり読んでいただくということでよろしく願いたい。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
色内小	<p>色内小学校の校区に関して、校区は校区でも、先ほど言われたとおり、緑から稲穂へ行っている子どもがいるという話で、色内3丁目の旧日本郵船、あの近辺に私の知り合いがいて、その子は、手宮西小学校に行っている。始め、手宮小学校に行っていて、当時統廃合の噂が流れて、それで手宮西に変えたという人ですが、その話がなくなって、子どもは今遠いところに通っているという話ですが、あそこら辺で、果たして色内小学校の人達っているのかなと思うのです。再編のプランで、色内小学校の稲穂5丁目、色内3丁目、長橋1丁目の方は、手宮・高島地区というプランはあるのですが、ここは最も危険なコースです、冬場は特に。どう考えても子どもの安全は守れません。今、一生懸命色内小学校で安全パトロールをしていますが、それでも危ない。そういうふうになっているから、なんとかおさまっている話で、それ以上遠くなる場合には大変なことになります。これは、脅しではなく、事故があってから御免なさいで済まない状態なので、これだけは、はっきり言わせてもらおうが、この考え方は平面図で見た考え方だ。立体的にみると山一つ越えることになるから。山一つ越えて、山を登るんです。どう考えても、大人でも大変なことになるし、特に子ども、低学年の子どもにしてみれば大変なことだと思う。ここで一番大変だと思うのは、集団下校ができづらい状態になると思う。どうしてもまばらになるから。集団下校は、最低でも10人くらいの下校になると思うが、それが5人とかになれば、最終的には一人は必ず一と歩かなければいけないとなるので、非常に危険だということが考えられる、この資料を見て。</p> <p>もう一度校区という考えで見るとではなく、地域という考えで見ていただけたらありがたいと思うのは、先ほど、反発するわけではないのですが、このブロックは小学校から再編しますと言われていたが、最上小学校を中学校にするというのをちらっと聞いた、中学校のプランで見た。それは、ちょっと違う話になってきます。同じブロックだから。そうすると、この地域で考えると、西陵中学校が小学校になってもおかしくないんじゃないか、ちょうど中心で、色内小学校の子どもたちも稲穂小学校の子どもたちも、ちょうど真ん中で良いのではないかと思う部分もある。西陵中学校であれば、当然色内小学校の子どもたちは中学校によく通っているわけだから、安全なコースも限られているし、当然稲穂小学校の方もそうだと思う。ということで、小学校を先に考えるという考え方、なぜそういうふうに至ったのかということをお聞きしたい。</p>	<p>資料13ページ、一番下段の記述、今お話しいただいた最上小学校の部分が関係してくるが、このブロックの特殊性として、小学校の再編を先行させて考えると書きました。ブロック内の3中学校の中でとの記述のあとに、松ヶ枝中学校のことを書いている。松ヶ枝中学校は昭和31年開校時の校舎のまま、改装等しているが、老朽化が進んでいる。あと、このブロックの将来的な人口の動き、立地環境から、今後の中学校の再編を考えた中でも、松ヶ枝中学校をそのまま現在地で建て替えをしていくというのは現実的ではないと判断している。そのため、中学校の再編を終えるまでの間、松ヶ枝中学校は校区内の小学校を改造して移転することを検討する。そのようなプランを作っている。このプランの中では、Cグループの中では、最上小学校を中学校仕様に改修して使用するという設定でプランを作っている。</p> <p>今、言われた部分、私どももこのプラン2をお示ししている中で、確かに小学生の足で浄心寺の坂を登って、下りて、また手宮小学校、手宮公園の坂を上って行くというのは現実的ではないと思っている。距離としては、そのコースをたどれば先ほど言ったとおり。実は手宮地区と関連するのですが、今日お渡ししている図面のプラン2をご覧いただきたい、上の方に手宮と手宮西と北手宮がある。この地区は、小学校3校を1校に、中学校は北山中、末広中を統合して1校に、学校の数としては考えている。高島・手宮ブロックで教育委員会がプランとして示しているのは、中学校は北山か末広のどちらかを使おうということではなく、両方とも高い場所にあるから、プランとしては手宮小学校と手宮西小学校のどちらかを小学校にして、小学校は高島小と祝津小がもう一つのブロックだが、小学校の三つを、このブロックの中では手宮か手西のどちらかを小学校として議論する、空いた方に中学校を建てようということプランを示している。ここは、中央ブロックだが、色内は手宮、手西なのかというのは、そっちの方の議論もしながら進めていく。繰り返しになるが、浄心寺を越えて、下りて、もう一回上がるという選択肢はないと思う。距離からすればこれが一番近いが、こういう形で、距離がどのくらい、住まいによっても、手西か手宮かによってもそれぞれ距離が変わってくるが、距離によってはバスを利用する、そういったことも選択肢として色々話し合いをしていかなければならないと思っている。</p> <p>小中の転換、使い方、先ほど言った松ヶ枝中学校ももう50年をすんでいる。この学校もすごいところに建っている。プランとしては松ヶ枝中を最上に持ってこようというプランを持っている。最上を緑との統合という考え方を出している。小学校を中学校に使用するにはそれほど大きな問題はない。例えば、便器を大きくする、高くするとかということで済む。中学校を小学校にする場合、建築基準法の規定で階段の高さが一段につき2cm違う。小学校の場合16cm。中学校は18cmまで良い。小学校にする場合は、階段を全部16cmに改修する工事をしなければならぬ。もちろん幅も決まっているが、階段を1階から3階まで全部替えるとなると、廊下に飛び出してくるような階段になってしまうこともあって、転換ということは考えているが、中学校を小学校にということは現実的には相当難しいだろうと思っている。今お話のあった位置関係からすると西陵中というのは小学校の位置として良いのかというのは、相当長いスパンで考えている議論ですから、一つの議論としては、していく必要、していくことは全然構わない議論だと思っている。今申し上げたとおり、西陵も遠いけれども、私どもが示していることから浄心寺の坂を上っていくというのは大変なことだと十分分かっているつもりです。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
色内小	<p>2点ほどお聞きしたい。一つは、前期8年、後期7年、15年間の計画として進められていくと思うが、ざっくり考えて、どこからどう手をつけて、プランを見ると建て替えが必要とか、改修が必要とか色々あるが、色内がなくなる、残るは別として、そういう予算的なものが今の小樽市に何校も、だからできるだけ既存のものを使いたいというお考えだと思うが、そういう予算とか財力があるのかどうかということ。それから、それまでの間にかなりの回数、時間、話し合いが必要だと思うが、教育委員会の皆さん、あちらこちらで話し合いが行われるということは、それだけの話し合いの場に人員を割けるのかどうかそれがすごく不安。ちゃんと最後まで、保護者との話し合いに、かなりの時間、回数、私たちがエネルギーを使うと思うが、その辺のところ、これから先検討していくにはちょっと不安なところがある。</p> <p>4 あと、今、地域の力、地域の教育力と言われている中で、第2次計画の中でも学校を開くということが言われている中で、このプランを見ると色内がなくなるという不安がどうしても拭いきれないんです。そうした中で、教育委員会が示されている地域と地域の力を使って教育力を高めようということ、もしここに学校がなくなってしまうということはそのプランと教育委員会が目標としていることと逆行しているように私は思うのですが、せっきやく色内の中ではボランティアの方とか参加していただいて、良い形でできているので、その流れがなくなってしまうのが、保護者としても、地域の者としても、もったいないというか、せっきやくの流れがここで途絶えてしまうのは、違うところに行ったら、統合したらそこでまた生かせるということはあるかもしれませんが、やはり色内のこの地域でしかできないということもあると思うの、その辺の目標というか計画と逆行、ちょっと流れが違うのではないかなということ、そのことをお聞きしたいと思います。</p>	<p>期間と予算の部分からお話をする。全市的に、市内41校全部対象にしてやっている。41校を見たときに、ここもそうだが、色内、手宮、北山、松ヶ枝はすでに50年経っている。だいたい学校というのは、40数年から50年くらいまでの間に、建て替えをしなければならない、コンクリート強度のこととかあるから、小樽もそのようなパターンでやっていた。すでに今言った4校がそういう状態になっている。それに平成16年からの耐震化工事というのも急がなければならない、という中で、このままでいくと在る学校はしなければならない、当然。これは、学校施設の状況と少子化という状況の中で、学校施設を改善していくためにもこの学校再編はしていかなければならないというスタンスに立っている。この計画は教育委員会が作った、教育委員会だけで勝手に作ったというのではなくて小樽市全体でも示しているし、議会でも色々議論をいただいている。</p> <p>先ほどの手宮、手宮西で言うと、例えば手宮を小学校で残すとすればこれは絶対建て替えだ。ここは50年を経ているから。手宮西を中学校で使うとすれば、中学校仕様の改装と増築をしなければならない。手宮西も大きな小学校ではないが、それを北山、末広を合わせた中学校にしなければならないから。その逆でも同じ。そこの部分は、私どもも学校再編を進めるということは、当然お金もかかることということで、市の方でも十分話をしながら、市の方でもこれはやっていかなければならないという考え方は持っている。</p> <p>正直に言って、学校の新築なりを一気に2校、3校を一緒にやるというのは中々難しいものがある。一定程度、年次的にやっていくということで考えていかなければならない、このことはご理解いただきたいと思う。逆に言うと、今回のこの計画、あえて、前期、後期、両方合わせると15年間、平成22年から36年までの15年間という計画にして、前期を平成22年から29年までの8年間としている。前期の中で今言った古い校舎のところは、基本的には手をつけていかなければならない。それは、再編と合わせて、建て替える、あるいは大規模改修をやる、耐震化をやっていくということは、していかなければならないと思っている。</p> <p>5月17日から7月22日まで、懇談会をこういう形で41校全部とやることとしている。ある地区の懇談会では、現実に「やるんだったら早くやってよ」「中途半端なのはいやだよ」というような意見もいただいている。六つのブロックで、小中でたくさんの方の戦場(懇談・協議の場)ができる。そうすると、足りなくなるのではないかなというのは確かにある。今年の4月から一人適正配置の担当者を増やした。次からの話は、いつもこんなにたくさんで来るということにはならない。一人というわけにもいかないの、二人程度で来て、いくつかの部分について話し合いをさせていただこうと思っている。地域の方から話を進めるというのに人が足りないから待つということには絶対ならないので、どうあってもきちんとした話し合いをしていかなければならないと思っている。</p> <p>最後に、地域と学校の関係、私もここで活動は良く知っているし、学校支援本部を立てていただいて、手宮、北手宮、手宮西といったところとも一緒に色々な取り組みをしていただいているのは知っている。それぞれの学校でやっていることは再編後も新しいところで引き続きやってくださいというのは、一般的な言い方になってしまう。この資料(学校の統合を進めるに当たって)統合校が決まったら、もちろんその前から、どこを統合校とするかという議論からだ、子ども同士の交流、今朝の新聞に仁木の小学校の交流のことが出ていたが、子ども同士の交流はもちろん、保護者の方、PTAの方、地域の町会の方や色々ボランティアをされている方など、そういう方々に集まってもらい、統合に向けての準備の議論というのをしてもらおうと思っている。</p>

中央・山手ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
色内小		<p>ここでは、新しい統合校の学校名をどうする、校歌をどうする、先ほど言われた通学路、この対策ができるのかなど、いろんなお話があると思う。その中の一つの大きな柱として、学校に対する地域の方々の支援、A校とB校では違う形でやっている。安全パトロールとか読み聞かせとか、違う形でやっている。それを統合に向けてどうやって拡大していくのか、あるいはどうやって作っていくのかという議論もしていただきたいと思っている。特に、この場合、放課後児童クラブの問題もあるし、土曜日皆さんの協力をいただきながら地域子ども教室をやっている。国のメニューとしては放課後子ども教室というのもあるので、今あるメニューを新しい学校でどうやって作っていくかという議論もさせていただきたいと思っている。こういったものは教育委員会だけでやるということにはならないので、資料の中には、統合に向けて2年程度かけて準備をしていこうと書かせていただいているが、それが2年でも3年でも良いと思っている。双方で、隣の学校でやっていることは今度の新しい学校でもやっというふうな部分での議論を、教育委員会も入るが、させていただきたい。</p> <p>最後のお話、それぞれ学校、PTA、地域の方々が学校を拠点にして取り組んでいる活動というのは、色内小学校の例をとるまでもなく、多かれ少なかれある。こういう話し合いをするとその話は必ず出てくる。自分のところの学校では、自分のところの地域では、あるいは、自分のところの町内会では学校と一緒にやっている、色々などころでお聞きをしている。どこの学校がということではないが、地域との連携は大切でそれを広げていかなければならない。例えば、この色内小学校でやっている取組をこの色内小学校の子どもさんだけに限定してやることはもったいないと思う。これは、中学校との連携とか隣の学校とか、今現在もやっているけれども、輪になって、大きくなってという観点も必要だと、そのことだけはお考えいただきたいと思う。だから統合すべきだということを言っているわけではないので、そのように感じている。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
色内小	<p>5</p> <p>ちょっと観点がずれるかもしれないが、この小学校プランで先ほど稲穂小学校の範囲が広いとか、色内小学校の範囲が狭いということで、実際にこの範囲というのは変えられないのか。ある知り合いの子が船見坂の下に居て、自分の子どもは道路に出て、見える学校ではなく、見えない学校に行くという素直な感想を言っていた。実際に安全面を考えると、親としては見える学校へ行った方が安全だ。まっすぐ行けば良いから。先ほど、5号線を跨ぐ、跨がないという話をしていたが、そんなことを言ったら、小樽では生きていけない。海か山かに分かれてるから。そういう問題以前の問題で、もっと近くの見える学校に振り分けていただくと、色内、稲穂、入船というのは、良いバランスで位置関係にあるのかとふと思ったりして。黙ってみていると。そうなると山を越える必要もないですし、危ない、危険なコースも行くことないと思うこともある。先ほど、耐震云々、やらなきゃならないところはやらなきゃいけないでしょうし、そういう意味ではもっと長い期間に亘って何年間も話し合う場があるのではないかと思うが、そういうことも考えていただいたら、ありがたいかなと思うのと、その間に、もし、富岡2丁目もそうですよね。見える学校は色内小学校なんです。見えない学校に子どもたちは歩いて行っている。その1本挟んで長橋1丁目の子は色内小学校に行っている。それも僕には良く分からない。なぜ、その範囲になったのかも良く分からない。そういう人たちが逆に色内小学校に来れば、色内小学校はものすごく増えてくるわけで、そうなると考え方も変わってくると思うし、今現存で、ある学校の中で、先ほど会長さんが言ったように、ここで活発にやっていて、じゃ統合したらできるか、そうではない。ここだからできるんじゃないかと思う。そういうのも考えていただいて、より一層やっていただいたらありがたいかなと思う。</p>	<p>前段担当から話をしたが、私どもお願したいのは、再編に当たって六つのブロックに分けさせていただいた。このブロックの分け方も、果たしてこれで良いのかという議論もあると思う。議論の進め方として、そのブロックの中で5校を2校にする、あるいは3校を2校にするといったところからスタートして、2校にする学校はどこになるのだろう、あるいは3校を1校にした場合の学校はどこになるのだろうと。その次にこの校区になるのかどうかというのはもう一つの議論になると思う。繰り返しになるが、手西を小学校にするか、手宮を小学校にするかによって、隣との関係というのは大きく変わると思う。まずは、全市的に進めていく以上は、そのブロック、ブロックの中で、冬の雪のことですとか、坂ですとか、除雪の関係ですとか見ればここが適切だという議論からスタートさせていく。それで統合校が決まったら校区はどういうふうになるのかと。ここからここまで道はついているが、冬は無理だ、通れないということになれば、こういうふうに戻して、長く通るけどバスを使うとか、そういう議論が必要だと思っている。なんだかんだ言っても、41校を21校にする計画です。通学距離が長くなるのは当たり前です。ここも昭和30年代の学校で、手宮とかも同じような学校だ。100年くらい前の町の事情で、町の作りで建てた学校です。もうすでに道路事情とか大きく変わっている、一方子どもの数も大きく減ってきている、昭和30年代40,000人いた子どもが、8,000人しかいなくなっているというのが現実、そういう中で学校の位置を議論していこう、そうした場合通学路はどういうふうに考えたら良いかということも議論していこうと思っっている。ここを統合校とした場合の通学路はこっちではないのかという議論は本当にさせていただかないとならないと思っている。この塩谷街道の状況というのも知らないわけではない、小樽はわりとこのようなところは多々ある。道路を全部拡げることはできないにしてもこういうことをすれば、こういう安全対策はできるのではないかと、この道を避けてこっちを通れば遠くなるが、安全に通えるのではないかと、そういう議論はぜひさせていただきたいと思っている。</p> <p>通学区域の話もあった。通学区域は毎年毎年変更するということにはならない。今の小学校27校の通学区域というのは、やはり昔の経過の中で決められたもので、ときどき見直しはやっているが、交通事情が変わったり、住宅の張り付き状況も変わったり、それが実態にそぐわな部分もあると思う。それが指定校変更、家庭の事情とか親の勤務先の関係以外にも地理的な要件、こっちの学校が近いという、そういった部分も変更の承認の理由に上げられるので、場合によっては今の実態にそぐわない通学区域というのはあるのは事実だと思う。今回の再編を契機に実情にあった通学区域の線引きというのも、議論の中ではできるんじゃないかと思っている。</p>

中央・山手ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
色内小	<p>6</p> <p>量徳小学校の一件を新聞報道で実は知った。その前の学校統廃合の時の量徳小学校の一件も報道で知った。報道と市議会議員と色々皆さん関係があるのだから、少なくとも子どもを持っている母親にすると、一番大事なものはそこに通わせている子どもや親であって、申し訳ないが、言葉は不適切かもしれないが、市議会のおじさんたちは関係ないのではないかって思う。今回の報道でも、質問した人も、質問の答え方も、それを報道した方も新しい病院のことについての意見であって、学校再編について直接関係ないというご意見かもしれないが、その話が出ないと学校再編が始まらなくて、最終的にああやって市長さんが出て話が解決するっていうのは、あまりにも切ない、情けないというか、親を何だと思っているのかと思ってしまう。教育委員会の方々も色々な立場の方がいて密接な関係もあるのですが、ぜひ親や子どもの立場に立ってそういうことを考えていただければと思う。一番知りたい、一番初めに知りたいのは、親であって、子どもであって、その子どもにまつわる知り合い、兄弟であったり、また知り合いが一杯いればその方たちもそうだと思うのです。新聞で知るより、学校からの説明とかが一番先に届ける、届くように努力をしてほしいと思う。</p>	<p>量徳小学校のPTAの方々には、本当に前回の小学校の適正配置も含めてある意味混乱をさせた部分、これは私ども教育委員会だけではなくて、小樽市全体としてもお詫びしなければならない部分はしなければならないと思っている。ただ今回も、一昨年から私ども学校の再編について話を進めてきてたが、昨年の6月からまた病院の建設問題が出てきて色々ご迷惑をかけたと思っている。私どもも基本的には量徳のPTAの方々、地域の方々には丁寧な説明はしていかなければならないということで、昨年の7月2日から今年の5月11日までこういう形で懇談会、説明会を6回もたせていただいた。ほぼ、1か月半くらいに1回ずつやった。</p> <p>現状で、量徳のPTAの方々含め、分かった、大賛成だという形にはなっていない。まだ、いろんな意見あると思う、あって当然だろうと思う。ただ、私どもとしては、5月11日の説明会の中で、小樽全体にとってはその病院の必要性といった部分も一定理解をいただきながら、24年という病院との関係では年限があることから、そこに向けて学校統合について具体的な話をしていこうということで、量徳のPTAの方々ともお話をさせてもらった。今後、またそれほど遠くない時期に具体的なことについての話し合い等もしていかなければならないだろうと思っている。これは、病院があったから量徳だけということではなくて、この学校再編そのものが、子どもさんはもちろん、保護者、地域の方々にとっても大事な課題だと思っているので何回も話し合いをさせていただきたいと思っている。</p>
稲穂小 7月7日	<p>1</p> <p>13ページの最後のところ、「中学校の再編を終えるまでの間、松ヶ枝中学校は、校区内の小学校を改造して移転することを検討します。」とあるが、この場合は、先に松ヶ枝中学校を移転して小学校にいくのか。それとも小学校の再編の時期は、どちらを先にするのか、同時進行なのか。その間は、中学校は三つ残るという考えだと思うが、その順番、スケジュール的なことはどうなるのか。</p>	<p>13ページの中学校の移転の関係、今の位置での建て替えは現実的ではないと教育委員会でもそう判断している。ただ、松ヶ枝中学校を移転してくるという想定をした場合、どこかの新たな土地に校舎を建てるということはあるので、ここで私どもが想定した小学校の再編の中で、緑小学校と最上小学校というグループを考えている、入船小学校と最上小学校というグループも考えているが、その際には最上小学校を統合校として使わない選択肢ができた場合の条件でしかならないことになっているが、最上小学校の場所が小学校の再編によって空くことになった場合に、中学校を持ってくるというプランなので、まずは小学校、最上からむ部分の小学校の再編を先に進める。その後に中学校を移転してくる。順番としてはそういう形で考えている。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
稲穂小		<p>冊子の5ページを見ていただきたい。Aグループは基本的に色内一稲穂を想定してのグループだと、今説明させていただいたが、実はCの部分で私どもとしては、緑一最上というグループを一つ想定している。それから最上一入船というのも想定している。それぞれどちらが良いのかは省かせていただくが、それと松ヶ枝中学校の校区を中心とした統合というのを想定している。その中で、いろんな条件があるが、Cのグループで統合校として残すのはどこが適切か、三つのパターンの中で通学距離からは緑小学校が一番通いやすいという場所になる。ただ、施設状況から、最上小学校は比較的新しい学校のため最上小学校統合校とした方がよい。その二つの考え方を述べている。入船小学校は、緑小学校から結構遠くなる。通学距離からは緑小、施設面からは最上小、そういう選択肢を出している。その中で、小学校が終わってから中学校に手をかけるというのが中央・山手地区の考え方だが、松ヶ枝中がそのような状況、築54年経って、耐震の優先度も①になっており、そういう状況の中で、松ヶ枝中については、小学校をやってからやりましょうということにはならない。やはり急がなければならぬ。それで一つの考え方として、最上小学校に松ヶ枝中を持ってきて、そして、緑小学校をこの地区の統合校にしようという考え方だ。ただ、3ページに緑小学校もすでに築40年経っている。さらに耐震優先度では松ヶ枝中と同じく①で施設状況としては決して良くはない。例えば、緑小をこの地区(グループ)の統合校にする場合、緑小は建て替えるしなければならない。そういう考え方で、このプランには書いている。実は、緑小学校での懇談会もやったし、松ヶ枝中、最上小は合同で懇談会を開いた。確かに今の松ヶ枝中は、小学校が終わってから中学校をやるという、長い期間、スパンをおいてということにはならないという認識は皆さんも持っていたらと思う。</p> <p>それから、松ヶ枝中のあの場所でもう一度、中学校を建て替える。要するに新築してまたこの先50年使うというのも考えづらい。ご存知の方もいると思うが、工業高校から松ヶ枝中学校まで上がっていく坂は大変な道だ。特に冬場は相当きつい道なので、あそこは今後も学校として新築してまた50年使うということにはならないというご意見をいただいた。それで、緑小学校を統合校とした場合には、最上2丁目のからまつ公園の方から2キロ程度の距離になる。ここで優劣の関係も出てくるが、入船とも相当距離が離れている中で、松ヶ枝中学校と最上小学校の合同の懇談会の時に、ある方からの意見というか、提言だが、シガの向かいのところにスペースがあってその後に、駐車場があって、一定程度のスペースがあるところだがそこにも小学校を建てれば最上方面からも、緑方面からも一部の入船からも通学しやすいのではないかと聞いた提言もいただいた。ただ、あそこは公園敷地内で学校を建てるのは、小樽市段階だけではなく、都市計画決定という北海道のレベルまで手続きが複雑というか、面倒な部分がある。私どもとしてはそのような提言について、できるかどうか可能性は別にしても、研究、できるとすればどのような方法があるのか、どんな方法をとってもできないのか、その辺は調査をしてみようと思っている。その意味では、会長から言われたことについては、まず緑小を建て替えるなければならない。そして最上小を移してそして松ヶ枝中を閉じる、とそれだけでも、短く見積もっても、3年という期間はかかると思う。だから、この計画が15年という長いスパンを持っているのは、建て替えなども含めてやっていかなければならないことからすると、相当時間もかかるということ長いスパンを見ているということだ。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
稲穂小	<p>先ほどの質問に続くが、プランを見ていると、前回の色内の時も感じたが、中学校を二つ決めてしまった方が、時間の無駄がないのではないかと考えている。残る中学校を二つ決めてしまえば、自然と小学校の統合位置も決まるのではないかと前回思った。他の地区もそうだと思うが、小学校と中学校を連動しながらやるというのは、分からないわけではないが、たくさんプランを示しているが、逆にプランがありすぎて、保護者の混乱を招いている。中学校をどこに、いくつ残してというのが決まれば、小学校の校区が決まってくるという気がした。</p> <p>2 実際、菁園中と松ヶ枝中と西陵中で考えると、西陵も擁壁を何千万円かかけて直しているし、西陵は学校の取組を新聞等でも良く見かける。他の学校では何もしてくれないという話も聞くので、良い取組をしている学校は保護者としては残してほしいと思う。そのようなことを考えると通学距離の問題だけではなく、学校の取組、そのような差があること自体が良くないことかとも思うが、保護者としては良い取組をしている学校を残して、自分の子どもを通わせたいというのは素直な思いだと思います。そこを考えて進めていただけたらと思う。</p>	<p>今お話のあった部分は、私どもも真剣に検討した部分です。資料の4ページをご覧ください、そこに21年度現在での中学校の状況を書いているが、西陵中学校が今は7クラス、菁園が今年10クラス、松ヶ枝は今年も6クラスだ。この中で、菁園が新しいということもないわけではないが、例えば、一つの想定だが、松ヶ枝は校舎も古いから振り分けるとしても、現実的にキャパ的に振り分けられない状況だ。菁園は、普通教室が16教室あるが、今現在、通常の学級で10クラス、特別支援学級で2クラス。押し込めるようにやれば、やってやれないことはないが、現実的には中々難しい、中学校を軸にしてしまうということが。もう一つは、中学校3校を2校にして、それからそれに合わせた小中連携も合わせたように校区を設定していく方が、手法的にはやりやすいと思う。というのは今の規模の中で、菁園中学校には五つの小学校から子どもが来ている。今色々ところで、文部科学省や道教委も含めて、小学校から中学校にいくときの「中1ギャップ」について議論されていて、今年から道内でモデル事業を道教委が始めたところだ。私どもも今後の小中連携を考えると、現状の菁園のように五つの小学校から来ると、やはり先生方がいくら頑張っても、小中の連携を日常的にやるということは不可能に近い状態だと思う。その意味では、一つの中学校に二つくらいの小学校からという固まりにしたいというのがある。ご意見のように先に中学校からやってはということも私たちの中にもあるが、現状、キャパ的な部分からも整理をしきれない。そして松ヶ枝中は、ご覧のとおり築54年という中で急がなければならないので、小学校を先行して、小学校の校区が一定程度固まってから中学校をという考え方を持った。否定するというのではなく、私どもとしても、相当議論した、考えて判断をしたということだ。</p>
		<p>先生方の定数についてお話す。実は国の基準で中学校の場合、6学級では定数が11人、9学級では16人になる。5人の差があるから3学級増えることによって、二人余分に配置されることになる。冒頭に挨拶でも述べたが、今小樽で免許の関係でどうしても、これは国できちんと認めてくれているのだが、小学校と違って免許がなくても、別の教科を教えてもらっているのが現状だ。中学校の先生は、できるだけ先生が多ければ、その免許を持った先生にきちんと子どもたちが習うことができる。そのような形になるものだから、できれば時間数の多い数学、英語や国語や理科の教科については、免許外ではなく、正規の免許を持っている先生に習った方が子どものためになるとの考えなので、6学級と9学級の比較では、9学級を基本とするということではあるが、やはり学級が多いほうが中学校の場合、そういう意味では子どもたちが免許を持つ先生に習える環境が整えられる。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
<p>稲穂小</p>	<p>3</p> <p>どうしてもこの中学校3校を2校にしなければならないのか。他の地区との兼ね合いで、向陽中学校も無くなる予定で、そちらの校区から来る人たちが潮見台中学校に行くよりは、今の最上小学校のところに来るほうが距離的に短いという考え方かと思う。多分、長橋中学校も蘭島、忍路、塩谷から来る子どもたちが出てくる。色内の校区からもいく子が出るかもしれないと考えた時に、どうしてもこの山手・中央地区は2校にしなければならない何かがあるのか。他のブロックとの兼ね合いで残すというも考えられるのかという点と、西陵はプールがある、向陽もプールがあり、無くする予定だと今の子どもたちにプール授業は無くなっていくのか。昔のように海へ行くのかと考えたりもする。どうしてもここを2校にするのは難しいのではないかと思う。他の地区からも、当初はブロック内だけという話はあったが、他の地区からどうしても混ざって来ることは避けられないことだと思うので、人数的なものはどうなのか。この地区は耐震基準を満たしているところが小中学校で4校あるので、昨年の話では耐震設計となっているところは優先的に残していく方向で、古い学校は壊すということで、その説明が、西陵も築30年だが、まだ小樽市では新しい校舎なので、あそこは山の中ですし、何かがあった時の避難場所にもなってる、そこが無くなったらどうするか。あの建物はどうするかと考えた時に、この地域に限っては、無理やり3校を2校にするのはどうかと思う。それをしたところで少人数学級というのはどうなっていくのか、今後の予定として、1学年何人、2学年何人と出てきた時にクラスの人数はどうなっていくのかというのを疑問に思う、いかがか。</p>	<p>小樽市では平成11年から適正配置に取り組んでいる。平成18年から全市を対象にして考えてきた。それは、一つの例では、昨年小樽市内で生まれた子どもさんが730人台になってしまい、今年小学校1年生に入ったお子さんが、生まれたのは平成16年、その時はまだ960人生まれていた。それから見れば、残念なことだが、去年、一昨年と700人台になった。そうすると、これから各学校の小規模化は今にも増して進んでいくということが一つある。そのような中で、一定規模、中学校でいえば9クラスを確保していきたいというのが教育委員会の考え方だが、そのためには一つの基準を持って、市全体を見て、ブロックに分けていって何校が必要なのか、そういう議論の中で出てきたということでご理解いただきたい。この地区の3校は、3校で良いのではということではなく、全体議論の中でこのようなプラン、考え方を示しているということをご理解いただきたい。</p> <p>もう一点、少人数学級の関係について、私どもも国の動向を大変注目している。国の定数改善は第8次が見送られ、今の中教審でも来年度に向けて少人数学級を整理して一定の方向性を出していこうという議論になっている。いつくらいに出てくるかというのと言えないが、見方としてはこの間の小委員会の中でも30人とも35人も人数は示されなかった。そういう表現だったと記憶している。私どもの見方としては、まずは35人ではないのか、それで今全国的に北海道も小学校の1、2年生と中学校の1年生を対象に研究事業としてやっているが、この辺がスタートかという気はしている。今日お配りしている資料の中で27年度の推計では、当然小学校1、2年生については研究事業の学級数を入れている。中学校1年も同じだ。全学年を含めても平均すれば30数人、2、3人というのが、27年度推計の平均、もちろん、学校、クラスによって、40人というところもある、24人のところもあるが、仮に35人になったとしても、それほど大幅にクラスが増えるという現状には中々なり得ない。もちろんそうなってほしいし、そうなるべきだと思っている。</p> <p>文部科学省の動きということで、あくまでもホームページ、あるいは別のルートで見聞きをしている段階だが、文部科学省の方でも色々な調査をやっているようで、今全国都道府県の中で、この間まで東京都も少人数学級をやっていないかだったが、最近の資料では、39人学級に踏み込んだようであり、全国の都道府県が何らかの取り組みをやっていると聞いている。文部科学省はそういったものを見ながら、あるいは有識者、関係団体の意見、それから、国民に意見を聴取するという手法で、何千人からの意見を求めた。その結果、定数改善については、今までよりも踏み込んだ中教審の作業部会の提言があったように聞いている。その中では、具体的に何人にするとは提言の中に盛り込まれてはいないが、今やられているものを尊重しながら、と行って余りにも規模が小さくなっていくのも色々な支障があるということで、歯止めをかけるような仕組みはどうだという提言もあったようだ。それが近いうちに、一つの政策として、国の方で示されるのではないかと思うが、ただ、その提言の中でも、一挙にやったらどうだということではなくて段階的にやってはというニュアンスの提言でもあり、その辺のところは見守っていかなければならないと思っている。そういう動きと、さっき部長が言ったように平成17年くらいから今の再編の動きをやっており、国の制度の動きは当然見ていかなければならないが、我々としては、今まで市民の検討組織からもらった提言やあるいは、何度もやっている、市民からのパブリックコメントもやり、中間報告への意見を求めるということもあり、小樽は独自の道を歩んでいる。そのように押さえていただきたいと思う。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
稲穂小	<p>このプラン、たくさんありすぎて、逆にいえば分かりづらいというのが正直なところだと思う。では、実際にどうしたら良いかというの、何となくボヤーンとしすぎていて、結局何が言いたいのだろうかというのが、非常に分かりづらい。先ほどの質問にあったとおり、スケジュールとかがはっきりと見えてこないと良く分からない、実際に自分の身に降りてこないというのがあるのかと思う。</p> <p>稲穂小学校も校区外から来ている児童もいるので、この人数に本当に捉われて良いのかというのもあるし、この人数に実際になるのか。校区外から来ている児童の動向とか、親御さんとしては中学校も見据えて小学校を選ぶような部分もあるのではないと思う。中学校の楽しい生活をするためには小学校のうちからきちんと色々の準備をしていった方が良いという親御さんの心配があると思うので、スケジュールがなんとなくぼやけすぎていて、いつどうして、どうなるというのが非常に分かりづらくて、もちろん一つのプランという過去の例からも色々あるので、こういう状況になっているのかと思うが、その辺をもう少し、こうしたという形で進めた方が良いのではないのかと思う。結局何が言いたいのか分からない、集まっても、どうなっていくのだろうかというのが、この文面からは見えな、読み取れないというのが正直なところ。</p>	<p>今、会長さんから率直なお話をいただいた。私個人は前回の小学校の適正配置の時にしかかわった経験があり、そこ部分では色々反省すべき点もあり、進め方を考えていく際には、これは全市的な課題だと思っており、多くの方に関心を寄せていただいて、ある程度納得をしていただいて、そして本当にこの再編の必要性と一緒に考えながらやっていこうということで、ある意味では、石橋を叩きすぎている、いつ渡るのか、というような言われ方をすることもありますが、これは会長さんのお話をいただいたように、今日の懇談会の位置付けを含めて、少し不鮮明な部分を感じ取っているのかなと思うが。他の会場で、このようなお話を「それでは、来年来るときには、このようなお話になるのですね。」と言われて、来年ではなく今年も続きがあるのというお話を別の会場でしたが、その辺のところは少なくとも、ここにいらっしゃる皆さんは、同じ気持ちに立ちたいと思う。</p> <p>進め方の部分で会長さんからお話しをいただいた。まず一つは、今司会からあったように、会長さんからもいただいたが、教育委員会が決めたことを持つていくということも一つの反対をいただくということもある。今日の資料の冒頭にも意見交換と書いていて、こういうことも考えられるということいくつかのプランを示しながら保護者や地域の皆さんに懇談会を通じて意見をいただくということである。このような懇談会の場を何回か繰り返していくことで、皆さんからこのような方向性でということが出てくれば、またそこに向けて議論をしていくということになるが、まず今は、市内41校、この案を持って7月22日まで各会場を回っている。それが終われば2学期以降も、今度はこのような学校単位にはならないかもしれない。一つのPTA単位で話をする機会になるかもしれないし、また関連する稲穂小学校と色内小学校のPTAの方にお集まりいただいて、そこでの議論ということもしていかなければならないというのもある。この場合は前期に位置付けており、8年の中で、8年後にやるというわけではなく、1日でも早く私どもは、方向性を出したい、皆さんの意見を聞きながら進めていきたいと思っているのでその部分をご理解いただければと思っている。</p> <p>時期的な部分を含めて、資料の青いリーフレットは統合が決まった場合という前提で書いているが、実際にはどこが統合校として相応しいとなった場合には、今度は、通学区域の問題、どこを通ると安全な通学路が確保できるかということなど個別具体の協議をしなければいけない。一番大事なことは子どもさんなので、その子どもさんたちが統合するに当たって、心のケアということで、事前の交流も必要となる、保護者同士の交流も必要になるので、この資料に書いてあるとおり教育委員会としては方向性が決まってから2年程度かけて統合に向けた色々な協議をしていこうということでお示しさせていただいた。</p> <p>教育委員会や市ができることということにどういうことがあるのかということも含めて、保護者の皆さんから通学路の安全ということも含めて考えながら、要望も出てくると思うので、そういうことについてこれから具体的な話を進めていかなければならないと思っている。今1学期中にこのような形で回っているので、2学期に向けては、その学校、地域によっては温度差があるかもしれないが、私どもも保護者の皆さんに声かけしてこういう意見交換をする場を持つていくということで考えている。</p>
5	最終的に統合を決定するのは誰なのか。誰が決定をするのか。	<p>教育委員会。最終的には、教育委員会が決定する。</p> <p>条例は議会の議決が必要になるが、校区をこのようにするということは、基本的に教育委員会が決める。といっても、勝手に決めるというわけにはならないから、このようなことをやりながら決める。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
<p>稲穂小</p>	<p>それは良く分かるのだが、教育委員会だけが決めるとなると、何となく我々のこの意見が本当にとおっているのか。先ほどの3校を残してという貴重な意見があったと思う。現実に残る、残らないは別にしても、それが本当に検討しているのか、どうもそこが我々とそちら側の間に深い谷底があって、中々見えなくて、そちら側がブラックボックスになっていて、突然コロナとサイコロのように出てきているというイメージで捉えてしまっており、ある意味不安だと思う。決まってしまう過程も教育委員会としては公開していくとは思いますが、我々の方から見ると見えづらい、正直に言うと見えないということになり、独断で決めてしまっているのではないかと。結局そういう案かということになっているのではないかと感じます。</p> <p>本当に校区を分けてやらなければならない、例えばプラン5はそうになってしまうわけで、ケアの部分とかは非常に大切になってくると思うので、当然そこは十分やっていただけたらと思うので、逆に言えば早めに話していただいた方が良いのかと思う。我々の子どもは稲穂小学校にいる、まだ小学校に入っていない幼稚園や生まれたばかりの子たちがこれに非常にかかわりが出てくることなので、そういう人たちのためにも十分すぎるほどの説明してほしいと思う。</p>	<p>中々一回だけではこのようなお話し、深くする時間もない。そういうこともあって、何度もこのような懇談はしていかなければならないと思う。特に現在の通学区域が分割されるということについては、色々なご意見もあると思うので、こちら今日の資料の中では出してないが、あるブロックでは、その子どもさんの分布状況の地図を別に用意して、より議論が深まるような工夫もしているもので、それはその時々、そのブロック、そのグループごとの議論の深まり具合によっては、色々な形の資料もだしながら、意見交換をしなければならないと思っている。</p> <p>前回の小学校適正配置の関係からお話が出ていたが、今回お出ししているこのプランは、これまでの経過を踏まえた中でたたき台ということで出している。先程も話をしたが、まず今回の適正配置のスタートについては、市内41校全部を対象としてやっていくことにしているが、今回の取り組みのスタートの部分でいうと、平成19年に市民の方の参加もいただいて「学校規模配置の在り方検討委員会」というものを作り、11回の会議を重ねてその中で答申をいただいている。その答申を踏まえて、平成20年に学校再編の考え方をまとめて、それを市内の中学校14校を会場に地域懇談会を開催した。さらにそれを踏まえて、平成21年に41の全小中学校と教育委員会庁舎を加えた42会場の基本計画の素案をお示しして、説明会を開催して意見をいただく場を設けた。その後、基本計画素案の意見を踏まえて修正するところは修正し原案として掲げて、パブリックコメント手続で市民の皆さんから意見をいただいている。それらを踏まえて最終的に昨年11月に適正化基本計画というのをまとめさせていただいたので、その中で六つのブロックに分けて小中学校それぞれの数を整理してお示しをさせていただいている、というところをご理解をいただきたい。私どもできるだけ市民の皆さんに内容を示しできる部分というのは、手段は限られているかもしれないが、これまでもお示しをしているし、今後もお示しをしていきたいと思っている。</p> <p>私たちはこういう会を100回はやっているが、逆に考えると、皆さんから見ると3回です。そこところは分かります。色々、伝えていく手段としては、どうしても限られてくる部分というのはある。ある意味長丁場なので、これから他の地区でも色々な意見が出てくるので、それぞれのブロックでどのような議論がされているのかを年に何回かでも良いと思うが、学校再編ニュースのようなものを出して「このブロックでは今このような議論がされています」ということもお知らせするように考えていかなければならないと思っている。</p> <p>というのは、15年という期間を言っているわけだし、一定の合意、話し合いがついたところからやっていくということで行っているので、所によっては「去年来たけど、そのあと全然何も言ってこない」ということにもなるだろう。でも私どもとしては足を止めているわけではなく、これは言い訳でも何でもないが、去年42会場やって400件程の意見をいただいて、その意見とそれに対し教育委員会がどのようにお答えをしたか100ページ程の資料をホームページでもアップしており、それを見ていただく他の地区ではどのような議論をしているのかも見ていただきたいと思う。どこの引き出しを開けると何が見えるのかということは情報として流していく。会長が言われた100%公開していくのは無理だが、できるだけブラックボックスにしないような努力をしていきたい。</p>

中央・山手ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
稲穂小	<p>7</p> <p>今日は、もう少し小学校の再編に関して進んだ話を聞けるかと思ったが、意外と中学校の話とか、教育委員会の微妙なバッシングみたいな意見が出たり、想定外だった部分だが、この教育委員会が考えた検討結果に出るようにプラン2、プラン4は優先して考える方向性だと思った。実際、このAグループに関連する色内小学校の懇談会が6月4日に行われたが、その時にこのプラン2、プラン4あたりの何か問題点とか、そういった声が聞かれたのか、お聞きしたいと思う。</p>	<p>今、ご質問のあった点、これはホームページにも掲載しているが、読み上げさせていただく。色内小学校の部分。「手宮地区への編入プランについてこの通学路は大変危険である。坂もあるため、平面ではなく立体的に見てほしい。」「西陵中を小学校として考えてみても良いと思う。」「現在の校区分けでは、色内小学校の校区が余りにも狭い。稲穂小が分かれるというプランはないのか。」「これは、プラン5でお示している。」「色内小、稲穂小、入船小はバランスの良い位置関係にあると思う。もっと長い期間にわたって話し合う場があっても良いと思う。」「15年間の計画だが、学校の建て替えや改修を何校もやる予算が市にあるのか。教育委員会が、統合までの話し合いの場にそれだけの人員をさけるのか不安である。」「教育委員会が示している学校教育推進計画には、地域の力を活用した開かれた学校づくりというのがあるが、今回のプランはその目標に逆行しているように思う。この学校はいい形で地域ボランティアの取組があり、その流れがなくなってしまう。」「それからその他として、「量徳小の一件については、新聞等で知るのではなく、学校からの説明が保護者に一番先に届くように努力してほしい。」「ということで、色内小学校での意見要望としてはこのような形で、これはホームページに掲載している。</p> <p>さっきの話に関連するが、この懇談会の様子、寄せられた意見は市のホームページも掲載している。色内小学校の懇談会の中でもまだ1回目ということで最終的にこのプランの中でどれが良いかということは、地域や保護者の方からも、これが良い、ということまでは深まっていない状況だ。</p>
花園小 6月28日	<p>1</p> <p>二つお聞きします。プランを五つ提案されていますが、プランを考えるに当たって教育委員会としては全市を見通して考えているので、一番望ましいプランの姿はあるのか。今の段階で一番望ましいプランはあるのか。全部の学校を回って意見の多いところにするという方向なのか。</p> <p>もう一つ、プランを見ると学校の適している場所というのは、この花園はBグループなのでこの場所が一番適切だということで、ここが中心になるのだと思って聞いていたが、組み合わせによってCグループは緑小が適しているとの話だが、私は最上が適していると考えていたが、今の説明では最上は松ヶ枝中学校の場所とするとしているが、プランの中には花園と緑という組み合わせもあり、Cグループは緑が望ましいとしても、緑の子は自分の近いところに学校ができるのに花園へ来るというのがどうなんだろうと思って聞いていた。教育委員会で(全市を見通した)学校配置をお持ちなのか、今の段階で、五つの中でも一番このパターンが望ましいというのがあるのかお聞きしたい。以上2点です。</p>	<p>今2点ご質問あった。まず私がプランを説明する際に、資料の表紙のタイトルの下に「地区別懇談会での活発な意見交換ができるように」と書いている。先程教育長からもお話をさせていただいたが、このようにプランを考えてすべての学校を基本に、ある学校を使う場合にはどうなのかということで、どこをなくするということは考えていない。そういう中から、このような懇談の場でどれが一番望ましいと皆さんがお考えになるか、先程も再編計画のところでお話をさせていただいた部分で通学区域のバランスや校地、校舎の状況、通学上の安全などからどこが望ましいのかを考えていただきたいと、冒頭お話をさせていただいた。今日お示しているこの中で、最終的には教育委員会からは、どれでも皆さん自由にお考えくださいという形でもちろん出しているが、その中で一定程度の判断をして適切だと、そのような表現を使わせていただいている。どれということはない。</p> <p>もう一つ、花園小学校と緑小学校の関係で、Bグループでは、確かに花園小学校がその位置が優位と考えていると言っているが、その場合、Bグループのプラン3、プラン4をとった場合、緑小学校はこの校区と一緒にすることになっており、その場合には、入船、最上の組み合わせの中で考えている、必ずしもここで、花園小学校が適切だと言った場合に、緑がというのは、組み合わせの中でどちらが適切かと言っている。</p>

中央・山手ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
花園小		<p>先生のおっしゃるとおりです。繰り返しになるが、中央・山手地区は学校も多いので組み合わせは複雑になっている。今の段階で、今日持ってきた部分ではCグループとBグループの関係で、花園、緑というのが良いのか、花園、入船というのが良いのか、その部分で正直どちらが良いかは、なかなか判断しきれない。先週、最上と松ヶ枝中の合同の懇談会を開いて、今日ここでやらせていただいて、明日は入船、その後緑に行く。それから稲穂は、Aグループということで、組み合わせとしては、一つのパターンしか出していないが、その辺の意見を聞きながら、その組み合わせを決めていかなければならないだろうと思っている。組み合わせが決まると、今度はどこの学校が適切なのか、そのような議論になると思う。先程入船のことで触れさせていただいたのは、入船小学校も隣の南小樽地区の奥沢小学校とブロック境界になっている。南小樽地区では国道5号沿い3校のグループ。それから国道393号沿いの奥沢、天神、Bグループ。その二つのグループにしている、奥沢、天神グループでは、現状では奥沢小学校の方が適切という考え方を言っている。奥沢小学校が統合校として固まったとすれば、当然入船小学校の奥沢小学校の前の道が入船校区だからその中の議論もきっと出てくるだろうと思っている。これを煮え切らないといえそうかもしれないが、私どもとしてはこのようないくつかのプランを出して、皆さんからご意見をもらうために、このような資料を作っているが、前提だからまずお示しをして議論をしていきたい。</p> <p>今回の学校再編については、ご存じでしょうが何年も前からやっていて、全体で市内の全部の学校を対象に再編をしていく。そういった中で一つずつステップを踏んでやっているつもりだ。今の段階は、最終的に小学校を13校、そして中学校を8校という一つの方向性を出して、それをある程度の長い期間の中でやっていく。その時にそれぞれのブロックで現状を把握して、地域の方の意見なども十分に聞いて、1回決めてしまえば、またしばらく続くのだから、その辺のところには皆さんが「そうだね。」というところまで持っていきたいと思うので、教育委員会が意見を一つ出してそれに対して喧々諤々やるというやり方もあるかもしれないが、今のところこういう形式でやっている。</p>

中央・山手ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
花園小	<p>2 (問いかけに対し)            花園は場所的には良いと思うが、グラウンドが悪い。グラウンドが良いのであれば、皆さん来てくださいますということも言えるが。会長グラウンド悪いですね。運動会が心配な学校だから、いっぱい迷惑をかけるかと思って。でも、花園が良いと言ってもらえれば、ありがたいと思って聞いていた。グラウンドを何とかしてくれるのなら良いと思って聞いていた。ただ、緑も近いし、入船と一緒にあった方が良いのかと思っていた。</p>	<p>先生の目から見て、今先生はそう言ったがどうでしょう。こういう聞き方するのも変だが、私たちとしてはそういうこともお聞きしたいと思っている。</p> <p>先ほどの資料の3ページ、4ページをご覧いただきたい。どうしても中心部にある学校のグラウンド面積はご覧のとおり。色内が2,700㎡、稲穂が建て替えの時に設計を工夫して4,500㎡、ここが3,500㎡、緑も2,800㎡。実は緑を統合校として、とお話をさせていただいた時、松ヶ枝中学校の保護者だと思ったが、「緑のグラウンドは狭いよ」と、意見として出されていたのは、シガの向かい、昔の車両整備工場のあったところ、あそこに建てられないのかという意見もいただいた。あの土地は公園の敷地になっているので、それを外すというのは法律的に難しいものがあるが、もし、あそこだとすればどれくらいの可能性があるのかということも調査してみたいと思う。この地区でいうと、菁園は中学校でもグラウンド面積が3,000㎡という中学校としては、極めて狭い面積。松ヶ枝は広いが、その中で最上小学校は、7,300㎡という大変広いスペースを持っている。実は松ヶ枝中が築53年でほっておけないという中で、最上に松ヶ枝を下ろそうとプランで示しているのは、中学校のグラウンドとしても7,300㎡あれば何とかやっていけるということで提案している。量徳小学校のグラウンドが4,500㎡。小学校としては平均的な部分で統合先としては、プランの中で言っている潮見台もここも狭い、と言われている。グラウンドというものは、統合校をどこにするかの大きな要素だが、やはり通学距離とか学校施設の状況とかそういったことも含めて、この資料の中では、適切な学校はこことしている。極端なことを言えば、菁園も狭いから花園小学校を何とかして、花園小学校を菁園のグラウンドにしたら良いのではといった意見もいただいている。</p>

中央・山手ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
花園小	<p>具体的に進めていく中で、計画とかも変わってくると思うが、具体的なめど、教育委員会ではどのくらいの感じで、この地区の計画はあるのか。目安のようなものを決めているのであればお聞かせいただきたい。</p> <p>もう一つは、25日の金曜日、量徳小学校の懇談会に参加したが、（保護者の受け止めが）全然違う。こちらは、学校の先生とPTAは私しか来ていないようで、その部分の温度差があると思ひまして、身に迫るというを感じている保護者がこの花園小学校は少ないと思ひます。その中で、南小樽地区は統合校として潮見台小学校がなるというお話をしてしまひて、対等な合併、新しい学校を潮見台小学校につくるといふ、3校を合わせて新しいものを作るといふのも一つの案だといふお話をしてしまひましたが、それはこの中央・山手地区においても同じといふ考えか。</p> <p>量徳小から花園に移って来るお子さんがいると思ひますが、そのフォローがあると思ひます。合併、合併となってしまう部分もあると思ひますので、先ほど説明のあった年数といふか、計画に関係すると思ひますが、おおまかな計画が分かればお教えください。</p>	<p>大きくは前期、後期に分けて、南小樽地区も中央・山手地区も前期の計画に位置付けている。量徳の保護者に協力を求めているのは、基本的に私どものスタンスは、前期は8年間の幅を置いているが、どこの場合も具体的に平成何年からではなく、地区、地区で、一定の合意ができたところからやっけていく、そういう考え方でいる。今日で3分の2くらいの懇談会の日程が終わったが、いくつかの懇談会の会場からは、やるのだったら早くやっけてくれ。時間を置いてしまふと毎年新一年生が来るわけで、自分の子どもは来年学校に入るが統合になるのは5年先となると、色々なことがあるので、早くやっけてほしい、といふご意見もいただいている。全体的な進め方はそのように考えている。今回この学校再編の全体的な作りも従前やっけてきたように一つの学校を二つに分けて、A校を二つに分けてB校とC校に分けるといふ考え方でなく、41校すべてを対象にしていることから、その地区、地区で新しい学校を作っけていくといふ基本的な考え方に立っている。だから南小樽地区で言へば、統合校としては潮見台小学校の場所と建物を使うが、ここに新しい学校を作るといふ議論をしていきたい、といふ私どもの基本的なスタンスで申し上げている。これはどこの会場でも言っている。こういう発言をするといふ地域では、各学校にそれぞれ伝統はあるから統合校は名前を残した方がよいのではないか、といふ意見もあるが、教育委員会の基本的なスタンスとしては、その地区、地区に、新しい学校を作っけていく。お渡ししている青いリーフレットにも書いてあるが、場合によっては、校名、校歌、教育目標とか、そういうものを含めて準備を、議論をしていく。そのように考えている。</p> <p>それで今会長さんからあつた時期については、このような準備をしていくには、子ども同士の事前交流、PTA同士の事前交流、中学校の場合だと制服の問題もあるし、小学校でも教材などあると思ひます。A校で使っているピアノとB校で使っているピアノがもし違っている場合、統合が2年後といふことになれば、その前から同じものを使っけていく。そのような事前協議があると思ひます。ここに書いてあるとおりに2年程度と思ひている。そういう意味では特に量徳小学校の部分でいふと、病院との関係がどうしてもあるので、先週金曜日の懇談会も10時までおつき合いいただいたことに感謝するが、是非、学校統合は対象校全体の問題なんだといふことを、今日は先生方がたくさんお集まりいただいているが、このPTAの中でもお話をしていただひて、また、私ども教育委員会の職員は来いといふわれればいつでも来るので、ぜひそういうスタンスでお願いしたいと思ひている。</p> <p>教育委員会としては統合校として、統合場所として使う学校は話の中から外れるといふことではなくて一体となつて考えていただひたいと思ひます。</p>

中央・山手ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
<p>緑小 7月2日</p>	<p>1 もし、最終的にここに校舎を建て替えるとなった場合に、正しい情報ではないかもしれないが、ここは河川敷に校舎、大きな建物を建てるのは無理なのではないかという話を聞いたことがあるが、それは大丈夫なのか。正式に決まった後に、設計とか予算の問題もあるかと思うが、どのくらいの期間が必要になるのか、お聞きしたい。</p>	<p>会長のお話のとおり、河川敷に校舎は建てられないが、河川敷から学校敷地まで境界があるので河川敷にかからないような形で建てていくことは可能だと思う。全体としては今あるような形で、広い敷地ではないが、河川敷に掛からない校舎の建設は可能だと思う。金額と日数については、色々な工法があって、例えばこの位置で建て替えということになっても、グラウンドに建てる、校舎の手前をグラウンドにすると、入ってくる時に必ずグラウンドを通りながら奥の校舎へ行かなければならないこともあるし、日当たりのこともあるのでやはりグラウンドの位置と今の校舎の位置は変えない方が良いのではないかと。詳しく詰めたわけではないが、考えてはいる。その中で考えると、児童がそのまま建て替える方法と工事をしている間、一旦、最上に移っていただくなど、誰もいないところで工事をすれば、1年程度ということもあると思う。この場所にいたまま少しずつ壊して、空いている教室に移りながらという方法取れば、2年はかかるのではないかと。それからグラウンドの整備もあるので、2年ちょっとはかかるのではないかと。金額的な部分は、そこそこの状況はあるが、一番最近では菁園中学校の例があり、10学級規模で平成12年度から16年度にかけて、地質調査が12年度、校舎整備が13、14年度、15年度に屋体の整備、最後の年にグラウンドの整備となったが、それで大体17億程度。事業費で17億ですべて市が負担するわけではないが、国の補助金や起債で17億程度。稲穂小学校は16年から18年で小学校の13学級規模ということもあり、それより少し高めだったと思う。それぞれの学校で15億から20億くらいの間は掛かると思う。全部壊すかここだと屋体もすべてやっていかなければならないので15億から20億の間になると思う。</p> <p>工期の期間は、一番良い状態で、一旦平らにして1年くらいという話をしたが、その前に準備に設計や色々な調査ということもあるので、最短で1年ということではなく、その前に事前の準備、あるいは国の補助制度を利用することで、その申請なども1年ないし2年の準備は必要だ。そういう意味でいうと、こういう事柄は決めるのなら、早く決めないとすぐ統合ということにもならないので、是非真剣な議論をしていただいて、良い方向に持っていきたいと考えている。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
<p>緑小</p>	<p>2</p> <p>ここはアスベストの工事をしているので、児童を通学させたままで工事をしてもその被害はないか。前にここを建て替えた時には、富岡小学校があったので全校生徒をそちらに移動し、1年くらいかけて建てていた記憶があるが、そのような形でできないかどうかということ、当初は、西陵中学校は耐震設計ということで残る可能性は大だったのが、ここに来て今のお話だと西陵中学校をゆくゆくは無くしていくと聞こえたのだが、プール施設もある、緑小学校を建てるとき色々考えると、児童の健康被害がないように、かなり埃などがたつと思うので、それを良く考えていただきたいと思う。</p> <p>うちの子は小学校5年で、校区でいくと西陵中学校だが、学区が変わっていくのかということ、西陵中学校の懇談会の話やと緑1丁目は松ヶ枝中になる可能性がある聞いた。そうなった場合の校区はどのようになっていくのか、また、義務教育の課程が終わるまであと5年ほどあるが、その間に適正配置で中学校がどうなっていくのか確認したいと思う。</p>	<p>前段に、なぜ小学校先行で中学校は後か、複雑だということもあるが、緑小学校は三つの中学校、西陵、菁園、松ヶ枝に卒業生を送り出している。市内の小学校で三つの中学校に別れるのはここだけ。あとは1校のところと2校のところ。それから、菁園中学校は5校の小学校から受け入れている。これも極めて多い。</p> <p>今、全道的にも全国的にも「中1ギャップ」、中学校に上がると、授業も科目によって先生が変わる、勉強が難しくなるということやなかなか馴染めなくなるという部分が出てくる。それをどうやって解消していくのかということで、小中の連携をきちんとやっていかなければならないということが一つある。そうすると、三つの中学校にいく、あるいは、五つの小学校から受け入れるとなると、小中の連携は現実的には大変なことになる。そういった中で今回、小中合わせて41校全部を再編していこうと考えているので、基本的に小学校の校区と中学校の校区ができるだけ連担するように、2校の小学校から1校の中学校に行けるような形、もちろん1-1でも良いが、そういう中で小中の連携をきちんとやっていきたいというのが、今回の再編の中で出している。しかし、小学校が6校もあることから、小学校の統合校3校にまず一定程度めどをつけ、そしてそのあと中学校に行くときの中学校の校区をどのように線引きしていくか、そういう基本的な考え方でいる。</p> <p>このプランの中では、あくまでも小学校をやってから中学校へ、結論的には、菁園と新しくできる最上にできる中学校、そこを統合校として考えていると示している。それは施設状況、西陵中学校も昭和57年築で28年経っていることから、その二つが適切ではないかという考え方をしている。まず、小学校の統合校の3校はどのようになるのか、そして、中学校をどのようにすれば良いのか、ここは一定の時間が掛かると思う。六つの小学校を三つにするだけでも相当な時間が掛かると思う。それを見極めたいうえで、また、より議論をしていかなければならない。ある意味、これから中学校に送り出すときに不安を感じるかもしれないがその辺はご理解をいただきたいと思う。</p> <p>アスベストのご心配もつとだとも思う。工事をするに当たっては、細かく詰めていかなければならない。イメージ的に聞いていただきたいが、この校舎はL字型になっており、L字のところで遮断して、そしてアスベストの囲い込みをする時に、夏休みなど子どもがいないときに外に飛び散らないように教職員の方も中に入らないようにした上で、夏休み期間中に全部除去するとか、そういう形で段階的に進めていくことは可能だとも思う。ただそうなるとうちでも工期で制約が出てくるので、時間的にはここに入りながらやると長いかかると思う。</p> <p>先程の一旦最上に全部いけば、そういう意味では安心だし、もちろん危険のないようにやるが、そういう意味での心配はなくなるが、一度移るので煩雑な面はあるが、工期や健康という面ではクリアされると思う。</p> <p>今の部分は正式に統合校が決まった時にどのように統合をスムーズに何年かけて終わるか、そういう経過の中で、どういう選択をしていくのかは、また改めて保護者の皆さんと詰めていかなければならない課題だとも思っている。ただ、選択肢としては今言った、ある程度の年数をかけても、きちんと区分をしながらやっていくというやり方と、皆さんの了解が取れば、統合校の場所は最上小学校ということにして戻ってくるという選択肢もある。それ以外にもあるかもしれないが、そのようないくつかのオプションを考えながら、大事業になるので教育委員会が一つの案を決めてこれていく、というような内容ではないと思うので、時間をかけながら慎重にやっていきたいと思っている。</p>

中央・山手ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
緑小		<p>この地区の緑小学校、松ヶ枝中学校は施設の関係から建て替えという議論になるのでそういう意見を出されたと思うが、青いリーフレットの左側の下の◆がいくつか載っているところだが、今お話した部分では何となく最上小学校がこちらに統合されるのではないかということになるが、議論いただきたいのはどこの地区でもそうだが、単に最上が来るとかこちらに合併してくるとかというのではなく、地域によっては三つの学校があるし、入船との関係もないわけではないと思っている。私どもの考え方としては、新しい学校を作っていくことも学校再編の一つの考え方として持っている。必ずそうするというのではないが、一番上の◆に「保護者や学校、地域の方などで構成した「学校統合協議会（仮称）」私どももちろん入るが、そこで統合が円滑に進むようにしていく。それで、どんな協議をするかといえば、通学の安全というのがある、からまつ公園の方から通ってくる子はどこが一番安全なのか。それから、事前に子ども同士の交流もしていかなければならない。それから保護者同士の色々な話し合い。それから、校名、校歌や学校の教育目標、そういった部分についての議論があっても、全然不思議ではないと思っている。一方では伝統ということがあるが、子どもの目線から見た時に、よその学校から来た子だということではなく、新しい学校を作ることによって色々準備をしていくことも統合をスムーズにいくためには、大きな要素ではないか。今、全道でやっている学校再編というのは、例えば札幌でも二つの学校を合わせて、全く新しい学校を作る。新聞でも取り上げられたのは、中心部の4校、大通小学校などを合わせて資生館小学校という新しい小学校を作ったというのが話題になったことがある。そういったことも考えていかなければならない。その意味では、施設の建て替え、改修の部分もちろんあるが、事前の準備、統合に向けて色々な協議ということも考えていかなければならないと思っている。</p> <p>新しい学校を作るという部分だが、平成19年10月に市民で構成された学校規模配置を考える検討委員会の組織を作って、そこからいただいた答申の中に「統合の視点」という項目がある。それを読み上げる「学校の統合に当たっては、ともすれば統合する学校規模等により、「受け入れる側」と「受け入れられる側」という意識が起きる懸念があることから、このことが児童生徒に与える影響に配慮する必要がある。したがって、統合を行う際には、関係者が一体となって新しい学校を作るという視点にたち、統合の事前準備段階はもとより、統合後の児童生徒へのケア対策などを進める環境づくりが大切である。」答申書の中にもそのような項目を盛り込まれていて教育委員会にいただいているものなので、そういった視点は今回の学校再編の中でも一貫して持っている。</p>

中央・山手ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
緑小	<p>3 今色々な話しが出たのは、決定後の話というか、ここは残るという前提での話しだと思う。その前に話された、この地域は複雑だと思うので、他の地域のように3校の中学校を1校にして、どこの学校を残そうか、どこの学校を使うかというような考えではいけない区域だと思う。それが決まるのが、当初5年を目処にという記憶があるが、いつ頃までに、この地区の場合は松ヶ枝中のことを解決して、玉突き状態に小学校のことを解決していくのか、小学校のことを第一にやるのか。小学校の組み合わせを決めて緑小が残るのであれば、どういう形で最上小に、例えば一旦引越して、建て替えて、最上小から引越してきて、中学のことを考えると、順番が色々あると思う。区域とかよりも。その辺の回答がどのくらいの目処でできるのか。下の子は2年で結構先が長い。上は小学校5年生。その中で、無くなる学校へ行かせようか、例えば西陵中が無くなるのがこの先何年間でその間に中学校3年間を迎えるのであれば、保護者としての考え方、残る学校へ最初から行かせようという考え方も出てくると思う。</p> <p>おおよそどのくらいの年数を目処に教育委員会として、この形を整えていくのか。ずっと先の緑小が残るという決定をしてからの話ではなく、だいたいこのくらいの目処でそこはきちんと決めたいという、色々な意見を聞いた上で、決めたいというところの話を聞きたい。</p>	<p>期待されている明確なお答えにはならないかもしれないが、まず、前提としてあるのは、去年策定した基本計画、全体では平成22年から15年間、平成36年までの極めて長いスパンでの計画期間を置き、前期、後期に分けている。その中でこの地区は、小規模な学校がたくさんあるので前期に位置付けている。前期の期間は平成22年、今年からこのような議論をしているおり、22年から29年の8年間というのが一つの括りとしてある。私どもの具体的な進め方というものは、前期のところを一遍にはできないので、地区ごとで一定程度の方向性、話がついたところから具体的に進めていこうと思っている。この地区については、まず小学校からやっていかなければならないと思っている。小学校にも色々なグループがある、ここ以外にも最上小学校でも懇談をしている松ヶ枝中の関係がある。先程、最上小学校での懇談会の意見も紹介したが、正直言ってここ緑小学校では「反対だ。」という意見は起こらないと思う。次の段階では、緑と最上と松ヶ枝中を含めて共通の議論を、この地域の部分でしなければならぬ。私どもとしてはそう遅くない時期には思っている。今年度やっていかなければならない。仮に、ここ緑小学校を統合校として建設となるとそのあとは、建設の日程とか準備などそういった部分というのは一定程度、明らかになってくると思う。中学校の部分までいくと、ここはBグループもしくはCグループとなっているが、Aグループでは、色内、稲穂となっていて、それなりに時間がかかると思う。色内については手宮との関係も出てくる。それから、花園、入船というグループとの議論も出てくると思う。花園の部分には、量徳の一部との関係も出てくる。色々な要素が出てくるので、このグループの2校ということではなくて、この中央・山手地区全体の方向性というものをきちんと固めて、それから次に中学校の議論をさせていただきたいと思う。</p> <p>これも紹介になるが、ある地区では、小学校を先にやると、次に中学校に行った時にまた統合に会うという場合もある。私どもこれは、基本的に避けたいと思う。小学校と中学校で二回学校が変わるとことは避けたいと思う。だから、地区によっては先に中学校をやってほしい、それから小学校をやると要望を出された方もいる。ただ、ここはどうしても小学校を先行しないと中学校の校区がなかなか整理しきれないので、ご理解をいただきたい。その意味では、小学校に手をつけてから中学校ということになると3、4年後に中学校が出てくるのは、ちょっと考えにくい。ただこのブロックでいえば次の段階は、松ヶ枝、緑、最上、そういう議論の場は必要ではないか、このように思っている。</p>

中央・山手ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
緑小	<p>4 西陵中学校は無くなるという押さえでよろしいですか。石山中とかが無くなるに決まっていた時に、新入生を入れていかなかった経過があって、卒業式を在校生が送られなかったという経過があったと思うのですが、廃校となる中学校は募集をしていかないという押さえでよろしいでしょうか。</p>	<p>中学校の件は、古い話ですが、その時教育委員会にいましたので良く覚えています。中学校3校、石山、東山、住吉の時も色々な議論をした。当初教育委員会で考えていたのは、1年から3年まで統合日を決めたらみんな一緒に移りましょうという案を出した。ただ、PTAの方と議論する中で3年生は受験を控えているから新しい学校に行って1年間だけで受験に臨むということにはならない。という意見が大変多くて最後の1年は3年生だけの学校になった、最後の一年は。最後閉校式を行うときは1、2年の子は移っていたので。3年生だけの卒業式、そして閉校式ということになったということで、1、2年生を取らなかったということではない。だから、今後具体的な議論になってくれば、中学校ほどそのような議論というのは少ないが、中学校ではやはり出てくると思うが、私どもの基本的なスタンスとしては、きっちり事前に準備をして、それで統合する時は一緒に統合、再編をやっていきたいというのが、基本的な考え方だ。確かに3年後にこの学校がなくなる、来年うちの子がその学校に入るのが、3年後になくなるのなら先に向こうの学校に行きたい、その気持ちも分かるが、それは柔軟に対応していかなければならないと思っている。ただ、教育委員会の基本的な考え方としては、やはり今ある学校に入って、統合に向けて色々な準備や交流をやって、行く時はみんなで手をつないでいこうというのが基本的だと思っている。</p> <p>それぞれブロックで様相が異なると思う。ここ中央・山手地区でいえば、小学校の学校規模、要するに子どもの人数は大体同じくらい。緑小学校も170人弱くらい、最上小学校でもちょっと大きいのが200人ちょっと、花園、色内も140～150人あるいは150人ちょっと。一つのかたまり、かたまりで一緒に五月雨式に移るのではなく、一つのかたまり、かたまりで統合ができるのではないかと、このブロックについては次の意見交換の中でも率直なお話を聞かせていただきたい。</p> <p>西陵の話ですが、一つご理解いただきたいのは、プランの表紙に書いてあるとおり、参加者間の活発な意見交換ができるようにという観点で作ったものだ。だから、この計画どおりいかどうかという部分からすると、ここでも二つも三つもプランを出している。そこは押さえてほしい。今日、この場では私どもの出しているプラン、緑小学校を統合校にということで、対立といったらおかしいが、どこも対立なくやっていきたいと思っているが、もちろんそうではないところはある。「なんでうちの学校じゃないの」というのがあるわけだ。あくまでも、現状ではプランなんだ、だから「昨日教育委員会が来てここ残ると言って帰ったよ」そういうものではないということはないということを押さえてほしい。何回も繰り返すが、これから、最上とも緑の保護者とも、色々な話をしていく。その中でやはり最終的に実施計画といっていいと思うが、そういうものを地区ごとの実施計画を作っていくというこいで理解してほしい。そのこのところは、理解をお願いしたい。これはどこの学校でも全部そうだ。プランを今日意見交換しているということだ。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
<p>最上小・松ヶ枝中 6月24日</p>	<p>色々選択肢があり分かりにくいところがあるが、菁園中の懇談会に参加し、聞いたが、松ヶ枝中学校をここ最上に持ってくるという話があつたが、その場合この児童と緑を合わせて、緑は古いので建て替えなければいけない。その間、緑の子はここに一時的にきて、新しく緑ができたならまた向こうへ移動すると聞いていたが、松ヶ枝がここに来るとするのが主要なプランとして聞いたので、小学校の再編はそういう考えがあると思うが、そこはまだ話としては進んでいないのか。</p>	<p>ポイントを補足させていただくが、初めに小学校のプランを説明した。五つのプランがある。この図面で白くなっている部分、ここに稲穂と色内がある。ここには書ききれないので、最上、緑を中心とした図面。前段申し上げたとおり、中央・山手だけで6校の小学校がある。そして隣接する、図面右下の量徳小学校の校区、ここを花園側に入れるというプランも出しているの、全体的に複雑なプランになっているのは事実。そういう関係もあり、まず小学校6校を3校にするという小学校のプランを基本的に固めていく。それを一定程度固めてから、その次に中学校の議論をする。中学校は3校を2校にしていきたいと、それが大きな流れだ。</p> <p>小学校の五つのプランは、最上と緑のプラン、最上と入船のプランで作っている。プラン1とプラン3で比較した場合、最上を統合校とした場合、緑を統合校とした場合、それぞれの最遠距離が1.7キロ、2.0キロと記載している。プラン3の最上と入船で考えた場合は、両方とも最遠距離が長くなる。最上を統合校とした場合も入船を統合校とした場合も両方とも2.2キロとか2.4キロになっている。</p> <p>教育委員会としては、距離を考えるとプラン1、緑、最上の方が優位性があると考えている。中学校との関連では、中学校は小学校が終わってから考えることを基本に持っているが、中学校の三つのうち、西陵と菁園は耐震はOKです。昭和56年以降に建てられた校舎で新しい耐震基準で建てられており、そこは大丈夫だ。松ヶ枝中学校は、昭和31年に建てられた校舎が一番古い校舎で、すでに54年経っている。施設のにも相当老朽化している。もう一度松ヶ枝中を新しく建て替えるという議論がないわけではない。ご承知のとおり、あそこの冬場というのは大変な道路事情があつて、通りから学校まで上るあの道路は大変な道路ということを考えると、松ヶ枝中をあの場所建て替える、あるいは耐震化して大規模改修するというのは考えにくい。そこで発言された方がおっしゃったように、一つの考え方として、小学校のプラン1の最上、緑の統合をベースにして、緑小学校も既に40年経っているの、緑小学校を建て替えて統合校にして、当面最上小学校を中学校にする。ここを中学校とした場合に、西陵から持ってくるのかそういうことは別にして、しばらくの間ここを中学校として使用してはどうかという考え方だ。</p> <p>先ほど言われた、一時、あっち、こっちという話は、最上小学校のグラウンドは小学校としては大変広い。資料にも書いたが7,300㎡くらいある。緑小学校はグラウンドも狭い。3,000㎡弱くらい、そういう条件があるから、緑小を建て替えると想定した時に、今の校舎を利用しながら空いてる所に建てて、建ててから古い校舎を壊すというやり方をとると、制約が多く十分な面積がとれない。</p> <p>一つの議論素材として、緑小に一回こちらに来てもらって、緑を全部壊して、建物の位置、グラウンドの位置をきちっと確保して、建て直して、ここから移って、ここを中学校にするという議論もあり得るのではないかと考えている。そういうやり方はお金かかるので、教育委員会だけでは決められなくて、市役所全体で議論していかなければならないが、一つの考え方としてはどうかと思っている。</p> <p>今日は、中央・山手地区の緑、最上グループ、松ヶ枝の老朽化対応ということで教育委員会の一つの考え方、一つのプランとして持っているの、ぜひそのことについてご意見をいただきたいと思っている。現状はもちろんわかっている。ここに書いたとおり、からまつから緑となると2キロと、相当長い距離になるので、今は1キロ程度だから。そういうことも含めてご意見いただければと思う。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
最上小・松ヶ枝中		<p>小学校五つのプラン、中学校五つのプランのうち、特にここ最上小学校と松ヶ枝中学校の関係で、一つのあるプランを選択した場合このようなシミュレーションになるという例を出した。それがすべてということではないが、教育委員会の内部で検討した段階では、ある程度色々な形を想定する中では、そのような進め方も地域の了解が得られれば、検討する値があるのではないかと、そのように思っている。今の話にこだわらなくてもいいが、色々な形での考え方があって当然だと思う。</p>
2	<p>状況は良く分かるが、意地悪な質問で申し訳ない。ここ最上小と松ヶ枝中の親御さんが多いので特化して言うが、最上小と緑小を一緒にして、松ヶ枝中をここにもってくるというプランにした場合、逆に松ヶ枝中を緑小の場所に建ててということも考えられるが、その場合グラウンドは狭いから中学校としては難しいというのも分かるが、そうなると最上小の児童は狭いグラウンドの緑小に行くのかという話になる。そこはしょうがないので我慢してくれという考え方なのか。</p>	<p>ある意味我慢してくださいということになるかと思う。今緑のグラウンドは3,000㎡弱。校舎をすべて取り壊して、校舎を建てて、そしてグラウンドを作ろうということで線引きができれば、4,000㎡くらいは取れるのではないかと思っている。もちろん、あそこは崖になっていて石がゴロゴロしているところもあるので、そういうところの整備も考えなければならぬ、うちの建設とも相談をしなければならぬが、1回更地にして、一番支障のない状態で校舎を建ててグラウンドを取ることになれば、4,000㎡は取れると思う。それでもここよりは圧倒的に狭い。ここは7,000㎡程あるが、市内の小学校の平均的な部分から言えば、4,000㎡というのはそこそこの面積だと思っている。ただことと比べると、我慢という部分は出てくる。</p> <p>直接的表現では我慢してくださいということになるかも。これはそうすると、松ヶ枝中学校の問題はどうなるんだ、今小学校に通っているお子さんもこのままでは、松ヶ枝中学校に通うようになるので、松ヶ枝中の厳しい自然環境の中で、昭和31年の校舎でそのまま存続するとなると建て替えということになる。そこでまた、校舎が古くなる50年後に、またそこで中学校という話になる。そうすると、少しでも、同じ中学校で勉強する環境となると校舎は新しくなるが、厳しい自然環境との戦いもまた続く。何年前かに、校門のところから200数mの道にロードヒーティングを検討できないかと、現実に土木の担当者と現地の視察をしたことがある。その結果、ロードヒーティングはお金が掛かるということと、ランニングコストの部分の経費ということもある。松ヶ枝中学校の校門の下のところ、工業高校と同じ通りのところ、あそこから通学路が学校の敷地になっているのでその維持管理は教育委員会の所管となる。すると松ヶ枝中学校を仮にロードヒーティングにしたら、教育予算の中で、その維持管理費をみていかなければならぬ。それをまた50年続けていくことに対しても難しいところもあるので、色々な形で検討した結果、数年前のその話は先に進まなかったという経緯もある。</p>
3	<p>校区分けという難しい問題、良く考えていただいた案だと思っている。私は小学校ではプラン5が現実的な案と思うし、中学校は4か5か思っていたが、昨年もお話をさせていただいたが、既存の学校用地は原則ということで、原則であれば例外もあると、市有地である公園用地とかを使ってはと言ったが、昨年は大変難しいとの答えをいただいたが、難しいというのは頑張れば何とかかなということなのかと思っている。</p> <p>小学校についても中学校についてもそうだが、二つの校区を合わせて、今の話を聞いていると最上小学校を将来的には緑小学校の場所になってくる気がするが、そうであればシガスーパーの向かいの市の土地に学校を建てると、どちらの学校も開校、運営しながら新しい校舎を造ることも可能ではないのかと思っている。公園用地は、難しいというお話でしたが、桜小学校のグラウンドは現在公園だということを知ったので、その辺はどうにでもなるのではないかと、思っている。色々大変な問題だが頑張してほしい。</p>	<p>今のお話し、シガスーパーの辺りという気持ちは良く分かる。市の建設部に聞いたところでは、公園用地になっていて、公園用地だと、都市公園になるので、公園法の縛りがあるということだ。公園の面積が決まっていて、その部分を削ると隣接する土地に同じ面積をどこかに足さないとだめだということだ。その分仮にシガスーパーのところに建てたとしても、その分をどこか小樽公園の中で足さなければならぬということ。緑小学校のところを足したらということもあるかもしれないが、現実的にはなかなか難しい状況だということも聞いている。桜小学校の話はおっしゃるとおりだが、あれはグラウンドのところ、桜公園のところを借りているということで、建物を建てているわけではない。建物の敷地は公園にはかかっていない。だから、公園の敷地をグラウンドとして借りている状況。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
<p>最上小・松ヶ枝中</p>	<p>4</p> <p>グラウンドを借りているということで、まさしく今駐車場になっているところ、冬場は雪捨て場になっているところに校舎を建てて、今の緑小学校の校舎のところを戻せば、公園用地として変化はないと思う。グラウンドは桜小と同じように公園用地をグラウンドとして使わせてもらえば、面積的には変化はないのかと思っている。</p> <p>もうひとつ、通学はバス通というのも視野に入っていると思うが、バス路線、プラン4でいえば入船小の下の方から最上小へ通ってくる場合に、現実的にそこにバス路線はない。子どもたちは2本バスに乗ってくるのかということにもなるので、そこのところもう少し現実的にバスがどのように走らせているのか考えていただかないと、簡単には納得できませんでしたとは思わないと思う。</p>	<p>バス路線について、まさにおっしゃるとおり、入船側から来ると山手線で洗心橋の辺りでしか止まらない。教育委員会としては、色々な想定を考えているが、今現状では最上までの路線バスについてはそこでストップということになっている。最初に申し上げたとおり、プランというのはあくまでもたき台ということを示している。入船側のことに関しては、もしかするとその入船側は、花園側に行った方がより近いというようなことも想定される、色々なパターンが出てくると思う。だから、私どもまずは一当たり、全市的に小中学校41校ということで、7月22日まで小中合同ということもあるので36会場で皆さんの意見を聞いて、それを1回で終わろうとは思っていない。何回も協議を重ねて、そういった意見をいただいて、どういったプランが一番良いのか。ここからだとなんか花園に行った方が良いのか、最上に行くのであればそのような支障があるので、通学路を考えていかなければならないということをご意見をいただいて、積み重ねて次回に生かしていきたいと思う。また次回については、このような単独の、今日は最上と松ヶ枝中を対象にしているが、次は入船と一緒にだともっと広げて懇談会を持つという考え方もあると思う。だから私ども1回ここをくぐって、色々ご意見をいただいて、2回目には生かしていきたいと考えている。</p> <p>お話いただいたとおりだと思う。プラン1では最上、緑グループというのを設定していて、プラン3の方では最上、入船というのを考えている。逆にプラン2では、入船、花園というグループを考えている。これから入船小学校の懇談会もあるが、この中央・山手地区は、学校そのものの組み合わせで、いくつも考えられる。そしてまた、6校を3校にした場合の統合校がどこになるかで、当然校区の線引きも考えなければならない。このプラン1の図面を見ていただいても良いが、左の奥沢小学校の区域と入船小学校の区域は道1本挟んですぐの位置にある、日成ヶ丘が上がっていく道だが、だから、奥沢・天神グループで奥沢小が残る場合はその辺の校区がある。特にそれが、中央・山手地区で色々なパターンがあるから、小学校を先行させよう、その小学校の校区に一定程度めどがつく、基本的に固まるという中で、中学校をやっていく、それでも数年かかると思う。この小学校をやっていく部分では、そうした時に、もうすでに54年たった松ヶ枝中をそのまま小学校が固まるまでということには、教育委員会としては考えにくい。ある意味綺麗な形ではないが、先程から説明しているプラン、考え方を示したということ。</p> <p>最上小学校はCグループだが、入船小学校の関係ではBグループとの関係もあるのでその辺の中で、どのような組み合わせが良いのか。今日の冊子の14ページから16ページにかけて、プラン別の検討、プラン1からプラン5までの特徴点と留意点を表にまとめてある。今日は時間がないので説明はしないがあとで見ていただいて、一番良いものがあればこのようにプランを五つも提示しないわけで、いいところと不十分なところそれぞれあるというのは考えておおり、その辺を比較しながらより良い形のプランの選択ということで議論をいただきたいと思う。</p>
<p>5</p>	<p>松ヶ枝中学校は確かに古くて、娘が通っているが、おっしゃるとおり安全ということを最初に考えた時に、いつ崩れるか分からないというような建物だから、この部分は特にスピーディにやっていただきたいと思う。何より、一番負担になるのは学校に通う子どもたちで、小さい1年生が大きなかばんを背負って、長距離、山手地区ということで、本当に山で通学は大変だと思うので、小さい子の負担にならないように、中学生になっても大きな荷物を背負って、肩に食い込んだ状態で通学していますので、なるべく子どもたちの負担を少なくできるような方法を考えていただきたいと思う。</p>	

中央・山手ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
最上小・松ヶ枝中	<p>6</p> <p>先ほどのお話で、小学校3校を2校にするプランとおっしゃって、緑、最上とか、プランがいっぱいあって、話をごちゃごちゃになってしまったが、先ほどの質問にもあった入船の子が緑の地区まで通う場合に、スクールバスや路線バスの話が出ていたが、このグループ分けというのはもう変わらないのか。素朴な疑問だが、入船小学校と奥沢小学校の位置ってすごく近い。天神小学校もこの地図で見ると近い。山とか坂はあるのだろう、と思った時に、自分たちの区域としてはまとまるのかと思うが、こちらの小学校の方、ちょうどその線引きされたところの方達というのは、その区域を超えて必ずしもそこに行かなければならないという疑問はないのかお聞きしたい。</p>	<p>ブロック分けのところからお話する。今回の学校再編は市内41校を対象にして進めているが、そのブロックを考える中では、一つのよりどころとしては、小樽市の総合計画があってその中に、ブロック分けの考え方、その地域の特徴とか成り立ち、地区割りがある。そしてこの学校再編に当たって、ここまで基本計画を受けて作ってきているが、ここまでする間に、市民の皆さんの意見を聞く機会を設け、その中でやはり地区を分けていかないと全市一斉にすべて同時というわけにはいかないの、そういう中でこうしたブロック分けをしてやっていくのが良いのではないかとあり、このブロック分けを設けた。先程部長からも説明あったとおり、奥沢と入船の関係とか隣接した分は今後再編の中でどうするというのはあるかもしれないが、基本的には現状このブロックの中で何とか完結していかないと、色々なパターンが出てきて混乱してしまうかと思う。</p> <p>もう一つ通学区域の関係だが、通学区域はここで今便宜上、色を分けて既存の小学校の校区を合わせるとか、そこに中学校の校区の考え方も入れて校区分けを作ってお話をしているが、実際には統合に向けてという話になった時に、では通学区域をどこにするのかというのは皆さんとの議論の中で、最終的には教育委員会が決定させていただくが、そういう話をしていく場があるので、今示している案を何が何でもこれということではないということ、冒頭から言っているということでご理解願いたい。</p>
	<p>7</p> <p>小学校の再編を先にして、その後に中学校ということだったが、耐震化が必要な松ヶ枝中学校に通う子どもたちの安全面について市はどのようにお考えなのか、心配なので、お聞かせください。</p>	<p>繰り返しになるが、先ほども申し上げたとおり、小学校を先行と言っている。小学校の6校を3校にということでもとめていかないと次に中学校の議論には入りづらいと言った。ただ松ヶ枝中は築50年を経過して耐震優先度も①という校舎のため、松ヶ枝中学校は後ですということにはならない。それで、松ヶ枝中のここへの移転という一つのプランを出させていただいている。先程の小学校の施設状況3ページを見ていただきたい。学校の施設のところの二つ目、耐震優先度調査と書いてある。その上にいつ建てたかを書いてある。色内小学校が優先度調査で②なので、①の次に急ぎなさいということだ。ここも昭和32年、築53年経っている。稲穂は新しいので何も書いていない。花園は、30年ちょっと過ぎていて、優先度調査では③なので、ここは耐震の補強工事と改修で対応できるだろう。緑も昭和40年で築45年、ここも優先度調査は①で急がなければならない学校だ。そして最上は新しいからOK。入船を見ると昭和51年で築35年経っているので結構微妙な時期に来ているという学校。中学校では、西陵中、青園中は耐震OK。松ヶ枝中は、昭和31年で優先度も①。おっしゃるとおり早くしてもらわなければ困る、というのはそのとおりだと思う。一つの学校を建てるのには、相当なお金もかかるし、すぐにはできないが、やはり松ヶ枝中、緑小といったところは、順番としてやっていかなければならない。そういう中でのいろいろご意見はあると思うが、ここは中学校として活用して緑小を建て替えて、最上、緑ということでの統合校にできないだろうか考えている。だから、安全、安心の部分、特に耐震化、それも含めて一つのプランを作ったということをご理解をいただきたいと思う。</p>

中央・山手ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
最上小・松ヶ枝中	<p>8 今の話で、松ヶ枝中を早くやってほしいというのはとても良く分かるが、やっていく中で、地区の実施計画の策定を懇談会でプランの合意を得られたところから進めていくと載っている。この合意というのは何を基準にというのはあるのか。</p>	<p>どこの懇談会の会場でも言われる部分、すごく困るお答えしかできないが、ご承知のとおり教育委員会が平成13年、14年にかけて石山、東山、住吉の適正配置を行った。そのときの説明会にも私は参加をしていたが、こういった会場で皆さんに賛否を問う、数の多い方で決めるということではない。それから、最後までやはり反対だ、とおっしゃる方もいる。ただ、やはり何回か話していううちに、それではこれでいこうか、いくためにはどういう条件を整えるのか、先程出ていたバスの問題もあると思うし、通学距離は間違いなく長くなるから、歩く道の安全対策とかそういうものも出てくると思う。やはり統合するに当たって、一番の問題は、何年かいた学校を移るわけなので、心の不安、そういった部分は当然ある。そういったものについては、どういった手だてをとってくれるのか。そういう意見のやりとりの中でやっていこうという流れになると思う。今ここで、半数以上の賛成があったらとかは言えないから、今日渡した青いリーフレット「統合進めるに当たって」とあるが、統合校が決まった後どうなるか、統合校をこのこと想定した場合どんな条件が整うのかという話と平行だと思うが、端的に緑と最上で仮にするとすれば、使っている教材の問題とか事前交流の問題とかPTAの保護者同士の話し合いとか色々な部分が出て来ると思う。私どもとしては2年程度の準備期間が必要ではないかと思っている。そういう準備期間を持ちながら子どもに負担のないよう、移ったあとに不安とか動揺が出た場合はそれに対応できるよう、一般的にはスクールカウンセラーの配置になるが、そういったことの議論を取りながら詰めていく流れになると思っている。</p>
入船小 6月29日	<p>1 教えていただきたい。例えばBグループの統合校として花園小と入船小となった時には、どちらとも耐震化工事が必要だと。学校規模から考えるとどちらも費用的には同じくらいかと思うが、緑小学校の場合は建て替えとなる。最上小の児童数を受け入れるとすると、その学校規模の建て替え費用と耐震化工事の費用というのはどのくらいか。</p>	<p>耐震化工事は、耐震化のやり方、校舎の造りによっても異なってくる。一番高くて2億円くらい見ておくと予算的にはいいと思う。一方、建て替えは、このブロック内で稲穂小学校が一番新しいという話があったが、もちろんクラス数によって変わってくるが、稲穂小学校を建て替えた時は約19億かかっているので20億まではいかないがそのくらいの数字にはなる。</p> <p>経費面から考えれば耐震化工事をやった方が格段に安い。しかし、耐震工事をやっても、校舎の寿命が伸びるわけではない。あくまでも耐震の補強工事なので、部屋を見ると柱が立っていて、ここを崩れないようにするには、その柱に筋交いを入れることになる。そういうことによって強度が増すことになる。強度は増すが、校舎の寿命自体はもうすでに30数年経っているので、寿命を大体50年とすると、耐震工事によって大規模改修も一部手はかけるが、寿命は若干伸びることになる程度で耐震工事だけでは延命にはならないことから、早晩建て替えが必要になってくる。ある意味二重の経費とまでは言わないが、そういったことも含めて考える必要がある。</p> <p>今耐震化工事をやっている学校、具体的な例でいうと、朝里中学校でやっている。ただ全部の棟ではなく、一部分。面積でいうと、約1,500㎡で7,800万円。もちろん構造もあるし、診断して実施設計をやらなければ具体的な金額は何とも言えないが、今やっている一つの例とすればそのようになる。ここの学校だと3,400㎡くらいなので面積だけでいうと億単位の金額になると思う。あくまでも予想だが。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
入船小	<p>2 通学距離が長いという印象を持った。今、お話のあった最大で2キロ、最大ですが、ここは最近、不審者情報も結構あって、通学の部分はちょっと心配である。特に、入船の周りでも、今の校区でも心配である。そのような場合に、どのような形で考えられるのか。どのプランでも構わないが、2キロのプラン1、プラン2で入船中心でも花園中心でも良いが、通学の安全面はどのように担保するのか、考えがあればお聞かせいただきたい。</p>	<p>通学の安全に関して、現在の制度で申し上げると小学校で2キロ以上、中学校で3キロ以上、これについてはバス助成の対象になる。現在小樽市内の小中学校でバスで通学している子どもは約400名いる。プランで具体的に説明すると、プラン1では黄色い図面で③の地点、松ヶ枝2丁目になるが、ここから花園まで2.4キロという距離になる。例えばここをバス利用すると山手線周りで2.7キロ、徒歩で1.3キロ、バスで1.4キロになる。この位置から緑へとなると全体で2.1キロ、徒歩で1キロ、バスで1.1キロとなる。お示しているのは、通学に関してたき台ということで示しているが、そのようなバス助成も含めた形の中で、色々検討を重ねる形になると思う。</p> <p>バス助成の件は今担当が申し上げたとおりが、副会長がおっしゃったのは、安全性の面で、通学路で交通事故に遭わないか、安全な道はどこか、ということだと思う。もう一つは、事件的な意味での危険についてどのように考えるのかだと思う。例として適当かどうかとは思うが、通学距離が1キロより1.5キロが良い。ただその1キロがあまり人通りのない道、道路を渡るときに信号がない、そういったことがあれば、逆に長くてもそちらの方という考え方でいる。最初に担当の方から、2ページのところの三番目に読み上げたところの統合校の場所はということ、一つは区域全体のバランスからいって真ん中あたりが良いだろうということ。それから校地・校舎、グラウンドの面積、校舎の状況、古い新しいということ。その次に通学上の安全、ここの小学校でいうと松ヶ枝中学校の冬の工業高校の方から上がっていく道というのは基本的には避けたい道だということ強く思っている。ご承知かと思うが雪の降る前に砂を2トン上げておいて近所の方にお願いで毎朝撒いてもらい、それでやっとならしているというのが現状。文字どおり今回の学校再編に当たっては、近い遠いというのも大事な要件だが、今言われたようなことは、考えていかなければならない。それで前段申し上げたが、中学校の再編で3校を2校にやっっていくといったが、目の前の課題として松ヶ枝というのがあり、一つのプランとして出したのはある意味そこを考えたということ。</p> <p>実は、ここで、去年説明会を6月25日にやっている。その時に、会長の方から発言があって、緑と入船を一緒にして新しい「小樽第一小学校」これは例だが、そういう考え方でいくのも一つのやり方ではないかと、提言をいただいた。基本計画の中に載せているが、A校を廃校にして隣のB校とC校に振り分ける、現実的にはそういう場合もあるが、基本としてはそういう考えではなく、それぞれのブロック、それぞれの地区の中に、2校が1校に、3校が2校という場合、その地区の中の場所としてどこが良いのか。先程会長が言われた交通安全の問題も含め、冬場の問題なども含めて、どこが一番良いのかということをもまず考えよう。そしてその地区の新しい学校を作っていくという考え方で、関係者の方と議論をしていくことを基本的なスタンスで持っている。その意味では、青いリーフレットに統合校が決まったらこういことをしていく、ということは何点か書いてあるが、校名・校歌、校章の検討、選定。そういったことも課題にしていかなければならない。そういった意味で私ども学校統廃合というよりも、学校再編という言葉を使っているが、そういった立場で今後議論をさせていただきたいと思っている。</p> <p>今の議論の中で、通学経路はここを通った方が良いのでは、あるいは、それぞれの学校で安全マップを作っていると思うので、その関係校が安全マップを持ち寄って実際に統合準備の段階で、安全点検をしていくとか、そういう取り組みも必要。学校だけではなく保護者も、あるいは地域の方の協力ももらいながら、そのような点検作業をやっていく、そういうのを準備の段階で時間をとりながらやっっていかなければならないと思っている。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
入船小	<p>統合学校にかかわって、教育委員会で長い時間かけて、慎重に検討されて、それぞれ、稲徳小、花園小、緑小が統合校として良いのではないかと書かれているが、その中で、三つ目のひし形のところに、学校立地の条件として「より良い環境であるかの観点も考慮します」と、書いてある。私は新聞報道でしか地域での話し合いの様子を知るすべはないが、忍路中央小、塩谷、長橋、幸地区での推移、様子を見せてもらっている。小樽はまだ豊かな自然が残っている地域だが、だんだんと子どもたちの通学の利便性や学校の改築の問題など、条件なども変わってきているのだろうが、学校そのものにして豊かな自然環境に触れるという学校が段々少なくなってきたように思う。</p> <p>例えば、示された中央・山手地区の統合校3校を見ても、緑小は小樽公園がある、稲徳小は周りに豊かな自然はないが、花園小は後ろに子どもの国があるが、入船小学校の場合、校地内、学校の敷地内に絶滅危惧種になっているような日本ザリガニが生息している、春になるとウグイスの鳴き声が聞こえる、カッコウの鳴き声が聞こえる、6月になるとキツツキが巣づくりのために木に穴を掘るための音が聞こえる。色々な昆虫もたくさんいる、そういう自然環境というのは学校の立地条件として大事だと思う。小樽市の教育計画では、確かな学力も必要、豊かな心あるいは健やかな体、知徳体のバランスある発達は大事だが、非常に恵まれた条件の中にある豊かな自然環境を使っている体験学習なんか、学校を離れて、遠くまで行かなければいけないという状況の学校が段々多くなってきたような感じがする。確かに、校舎建て替え、耐震工事とお金がかかるということでは、経済的な効率、効果も考えなければならないのだろうが、教育面の効果についての配慮もしていただけたら、これからの次代を担う子どもたちを育成するためにも大事ではないかと思う。</p>	<p>今、話されたことは全然、否定すべきことではないと思う。小樽の学校の場合、横に長い坂の町で、わりと自然は近いところにあると思っている。なおかつ、その自然の中にある学校は、町の真ん中にある学校よりも、その教育活動においても、色々なメリットがあると思う。実は先日、豊倉小学校、ここでは長い間かけて周辺の昆虫の、観察というよりも博物館の学芸員と地域の調査しており、私どもも何回か懇談会に行っているが、やはり、地域の方からは、学校と地域のことも言われる。それから、豊かな自然を活用した今までの取り組みの評価についての意見もある。一方で、これも保護者から出た意見だが、今20数名という規模になって、確か2年生だったと思うが複式で男の子3人のクラスになっている。そうすると、何かがあると、そこから動きようがなくなってしまう。その意味では一定の規模、豊倉は極端な例だとは思いますが、そういった意見もあった。私どもも教育活動全般を見ていく、全般を考えていく中では、やはり1学年1クラスでは限界がある。ご承知のとおり先程担当からあったが、今年の新一年生は、平成16年に生まれているお子さんだが、その時は年間850人程の子どもが生まれている。去年1年間では720人。この6年間の中で100数十名減っている。そういった中でやはり再編はしていかなければならない。ただその中で、今ご意見のあった小樽の自然とか、色々持っている条件を教育の中で、それぞれ学校のクラスの中で、授業の中でどう生かしていくのか、そのことはそのこととしてきちんとをやっていかなければならないと思っている。</p>
	<p>学期ごとに、子どもたちの登校時にふれあいサポート活動をさせていただいているものだから、子どもの通学時に安心・安全という観点も大事なことだと思うが、入船の場合、小樽短大付近はこの校区だが、あの辺りはだいふ花園へ行っている。入船公園付近のお子さんは、校区は入船だが、緑へ行っている。こちらの住吉神社の手前の辺りは、校区は入船だが、奥沢小へ行っているということで、現実の問題として通学路というのは統合校を決める一つの条件とはなるが、さほど小樽市の場合は絶対条件ではない。一部遠距離はもちろん考えなければならないが、通学距離というのは、確かに考えなければならないが、現実にはそういう面もあるんだということの認識をしていただきたいということと、先ほど耐震工事と建て替え工事とのくらい違ってお聞きしたのは、本校の子どもたちが緑へ行く、緑のお子さんが入船へ来ても、そう距離的には問題はない。例えば、こちらの方の耐震工事が緑の建て替えよりお金がかからないとすれば、より自然条件が豊かなところの入船が統合校としての考えはないのだろうか。確かに、冬期間の通学路の関係でいくと、本校は道路から少し入るから、その面では問題もあるのかと思うが、除雪費の経費の面では緑小が良いとは思いますが、41校がかなりの数が減るので、どこに統合校があったとしても、子どもの安全・安心から除雪はきちっとしなければならぬとなるので、私の考えとしては今説明を受けた中では、プラン5しかないと思うが、こちらに住むようになって、入船小の自然環境の優れたところを知ったものだから、その辺も考えていただきたいと思う。色々なものを総合的に考えてみて、費用の面から、通学路の面から考えていただいて、地域の声を聞いていただければと思う。</p>	<p>今貴重な発言をいただいた。今回、教育委員会ではプランで出した観点、学校規模、通学距離、施設の老朽度、そういった観点を主にしながらプランを作っているが、それ以外にも今お話のあったことは重要だと思う。まだ今後も具体的なお話をいただければ、例えば通学区域の設定自体も、とりあえずここでこの地図で色分けをしているが、その辺のところは柔軟性を持って通学経路を検討する段階では、もう少し幅を持ちながらやっていかなければならないと思っている。</p>

中央・山手ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
入船小	<p>5</p> <p>皆さんおっしゃったとおり、統合されるのであれば、子どもの通学路の安全を守っていただきたいというのが第一です。この入船小学校は自然に囲まれた学校ですので、もし統合で入船小学校がなくなったとしたら、この場所はどのように変わってしまうのかお聞きしたかったのですが、本当に、周りは自然がいっぱいで、子どもたちが毎日外で休み時間に遊べるような学校なので、その自然を生かした活用をしていただけたら良いかと思うのですが、どうでしょうか。</p>	<p>今の、学校の跡利用も含めて、教育ではなく、企画サイドからお答えする。基本的には昨年11月に策定した学校配置の基本計画というのが出ている。この中に、廃止となる学校施設の跡利用ということで、基本的な考え方が示されている。</p> <p>「統合により廃止となる学校の建物や土地の利用については市民の共有財産として、全市民的なまちづくりの視点で地域の皆さんの意見や要望を聞きながら検討します」ということになっているので、基本的には、こういう場で皆さんから出てくるご意見などを十分に聞きながら進めていきたい。それと学校の機能について、学校が教育の場としての機能だけではなく、例えば、私ども市の考え方でいくと地域防災計画というものを持って行って市内の41校すべてが避難所に指定されている。だから、学校の機能を失ったからといって、直ちに壊すということではなく、まず避難所としてどうするのかということになる。あと地域によって、小学校や中学校がコミュニティの場として使われている場合があり、そういったコミュニティ形成の場としての機能も残していかなければならないというご意見もあると思う。私はこの地域に住んでいるので、例えば少年野球のお子さんやサッカー少年団のおさんが使っていることは知っている。こういったものがなくなれば、練習の場がなくなる。それはそれで考えていかなければならない問題だと考えている。ただ施設を残した場合、例えば改修の費用とか、それを誰が維持管理していくのか、それはまた別の問題としてあるので、そういったものも勘案しながら、最終的には地域の皆さんのご意見に十分配慮しながら、市としても考えていきたいと思うので、学校としての機能がなくなるから、建物も壊して土地も処分してしまうという考え方は基本的にはない。</p>
	<p>6</p> <p>先ほどから話を聞いておますと、今日は懇談会。私たちの意見がある程度出た時に変わるんですか、考え方が。変わらないような説明ばかり聞いているので、説明会というのであれば話は分かるが、懇談会という名前と呼んだのであれば、我々の意見というのを確実に一つ一つ評価してもらいたいと思います。今までの皆さんの答えは、初めからプランを言っているだけで、もう完成事実みたいなので、説明会だったら分かります、今日の話は。</p>	<p>私ども今回はあえて地区別懇談会という形で位置付けさせていただいている。私どもの考え方としては、説明会というのは一つの方向性というか、教育委員会なら教育委員会の考え方を持ってそれを皆さんに説明するのが説明会だろうというふうに考えている。今回は、去年いただいた意見も含めてだが、あくまでも教育委員会としてはたたき台をお持ちした。それも入船小学校の関係で言えば、プランは五つだが、入船小学校の関係で言えば、三つの案をお示ししてそれで、このプランが良い、あのプランが良い、ほかのプランも、ご意見をいただいても当然いいわけだが、一方的に何か方針を決めて、これを皆さんにご説明をするという場ではないということは、実際に進め方も含めてご理解をいただきたいと思っている。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
<p>西陵中 6月18日</p>	<p>1 今の説明で理解ができなかった点がある。小学校と中学校との統合の関係がごっちゃになってきて、ちょっとわからないのだが、腹案の中で中学校の部分については最上小学校の改修をしてというのがかなり有力のように聞こえていたが、そうすると小学校の方でも最上小学校が候補となっているような感じに聞こえていたのだが、そうすると小中学校ということになるのか、という単純な疑問が一つ。</p> <p>もう一点は、図面の方のプランで見るとそれぞれ五つのグループの中で、プラン1から始まって、2、3、4、5とそれぞれ区域がちょっとずつ違っている訳だが、これは特に区域を変更したというのは、メリット、デメリット当然あるわけだね。その辺をちょっとご説明いただきたい。</p>	<p>まずは、一点目の最上小学校の関係、ひとつは私どもが考えたこのプランの中でも現在ある学校を統合校とした場合にはどうなるかという観点から考えており、小学校の再編の中でも、最上小学校を統合校として考えているプランというのももちろんある。いくつか小学校のプランを作っている中で、最上小学校や緑小学校などどちらの学校を統合校とした場合に、今日見ていただいている表と同じように学級数がどのくらいになるという記述は同じようにしてある。だから、最上小学校をなくしてということはこのプラン上はない。中学校のプランの14ページ「プランとパターンから見た場合の検結果」のところに三つ目のひし形がある。そこに書いてあるのは、松ヶ枝中学校を統合校の位置としたパターンが、今説明したプラン1から5の中にそれぞれ②⑥⑩⑭⑱と五つあるが、そこに書いてあるとおりの再編プランで、最上小学校への改修移転が含まれない場合にのみ有効という前提があり、最上小学校が統合校として残るといえるのであれば、ここでいう松ヶ枝中学校をそこに下ろしてくるということでは逆にならないということになる。そういう作りということでご理解いただきたい。小中一貫校を新しく作るということではない。この再編の中では、小学校は小学校、中学校は中学校という前提なので、小中の併置なども考えていない。</p> <p>もう一点、区域を色々分けて何パターンか示しているが、まずプラン1は、現行校区をそのまま組み合わせたものということをご理解いただけたと思うが、プラン2になった場合は、中学校の校区をベースにしているが、緑小学校校区のピンクになった部分は、今回の適正化基本計画では、2校ないし3校くらいの小学校から一つの中学校へ入ってくるようにできるだけすっきりしたい。一つの小学校から複数の中学校へ分かれて行くようなことはできるだけないようにしたいので、小学校の校区をベースにという考え方がひとつ出てくる。</p> <p>プラン3についてはプラン1とほぼ同じだが、違うのは色内小学校の校区のうち長橋1丁目、2丁目と色内小学校の付近を隣のブロックへ持っていこうと考えているが、これは小学校のプランとの連動で考えている。例えば小学校だと、稲穂小学校と色内小学校の校区を合わせるプランを考えているが、その場合、図面上に稲穂小学校の校区を示しているが、色内小学校の方から来るとなると、国道と臨港線を渡ってくることもあるので、それを避けて手宮方面と合わせることを考えられないかというプランを作った。これがプラン3の考え方になっている。プラン4は、今の切り取った所は同じ考え方になっているが、このようなことを主眼に整理をしているということでご理解を願いたい。</p> <p>これまで市で作る計画は、一般的にはほぼ固まった一つの案を示して、それについて「皆さんどうですか。」というお話をすることが多かったが、このように五つも案を出して何を考えているのかと思う方もいるかもしれないが、市内41の小中学校全部を再編していこうということから、去年の素案説明会でも400件の色々な意見が出ていた。今回はそれを踏まえて、複数のプラン、特にここ中央・山手地区については、学校数も多いことから色々な組み合わせが考えられるのではないかと、議論は大いにやっていきたいと思うので、色々な考え方を教育委員会でできるだけ考えてきたということだ。</p> <p>説明しているほうでもなかなか分かりづらいと思っているが、今日配りしている広報の写しをご覧いただきたい。ここでは、市内の6ブロック全部まとめているが、中央・山手地区の小中学校と南小樽地区が載っている部分を見比べていただきたい。中央・山手地区のプランがどれだけ数が多いか分かっていただけると思う。</p>

中央・山手ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
西陵中		<p>南小樽地区は、国道沿いに量徳、潮見台、若竹を小学校の一つのグループにしている。もちろん色々なバリエーションを考えているが、これが一つのグループになる。それから、国道393、天神方面へ上がっていく道沿いの奥沢、天神でもう一つのグループで考えている。</p> <p>この中央・山手地区に来ると、小学校のAグループは稲穂、色内で一つのグループになっている。色内は、隣のブロックとの関係が出てくるが、グループとしては稲穂、色内グループで作っている。ただ、B、CになるとBの一番上は花園、入船を考えている。他に花園、緑も考えている。もう一つは今の菁園の校区を考えている。Cグループでは、最上、緑として考えているが、他にも最上、入船も考えている。組み合わせ自体のバリエーションが色々考えなければならぬと作ったものだ。今の説明で最初に小学校を説明してそのあとに中学校に移ったというのは、そういうこと。この地区のある意味特徴ともいえるが、先程も学校の状況ということで資料の中にも示しているが、菁園中学校は、稲穂、花園、緑、入船、量徳と5校の小学校から上がってきている。ここ、西陵中学校も三つの小学校からきている。そこで教育委員会としての一つの考え方としては、一つの中学校にあまり多くの小学校から来る、小学校でも幾つもの中学校に別れていく、そういうことはできるだけ避けたいと思っている。菁園のように五つの小学校から来ると、「中1ギャップ」などを防ぐために小中の連携をきちんと作っていかなければならない。今でも先生方は頑張っているが、仮に菁園から見た場合、五つの小学校となると現実的には難しくなる。そのようなことも今回の小中を合わせた再編ではできるだけ解消していきたいという考え方だ。先程の広報に戻るが、南小樽地区を例にとると、小学校にしても、中学校にしても割合イメージしやすいが、中央・山手地区では色々なパターンが考えられるので、この地区についてはまず小学校を先行させる。小学校でも6校を3校にするので相当な議論は必要になるが、その小学校の議論が一定程度落ち着いてから、新たに決まった小学校の校区の中で、中学校3校を2校にする場合どこにするのが良いのか、そういう段取りで議論をしていこうというのが、この地区では、小学校を先行させていこうという理由になっている。</p>

中央・山手ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
西陵中		<p>その中で、中学校3校のうち、西陵中は昭和57年と比較的新しく耐震基準ということからすればOKだが、松ヶ枝中学校が一番古い校舎が昭和31年で、耐震の問題がなくても一番古い校舎が54年経っている。もう建て替えの時期は十分に来ている。そう考えた場合に、松ヶ枝の手だては早くしなければならない。小学校が終わってから、中学校ということにはならない。それでこの中央・山手地区は、小学校を先行するが、松ヶ枝の対応はしなければならない。そのあとに中学校についてはきちんと議論をしていこうというのが基本的な考え方。先程、町会の方からご意見のあった、最上小学校を中学校にとなると、最上はどこに行くのかということで、小学校の方では、一つの考え方として緑小学校を統合校とする。そして最上小学校が空けばそこを中学校にするという考え方を示している。ただこれも、松ヶ枝中学校、最上小学校との懇談の場はこれからなので話をしていかなければならないが、そういう考え方が、この中央・山手地区だということをまずご理解いただきたい。確かに、小学校を中学校に使う場合、グラウンド面積など色々課題はあるが、最上小学校のグラウンドは結構広く、昨年、松ヶ枝中学校でも説明会を行ったが、その時の議論の中でも、もう一度今の松ヶ枝中学校の場所に建て替えて、一度学校建て替えると40年から50年使うことになるから、あそここの場所はなかなかそうはならないという議論もある。学校に向かうまでの坂はとても急で冬場は厳しいので、やはり今回の再編で考えていかなければならないということ。</p> <p>今後も色々な場面で議論をさせていただくが、大きな括りとしてはこの中央・山手地区の考え方、議論の進め方はこのように考えているということをベースにさせていただきたい。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
西陵中	<p>2</p> <p>まずお聞きしたいのは、学校を少なくするというご苦労はすぐ分かる。ただ、単に今の学校、今の生徒数だけを見ての学校の移動というのか、それは教育委員会にいる皆さんはすべて分かっているということで、これは私たちには分からないことで言われることはもともとだと思っている。ただ、この町会からすると、税務署も出て行く、前の拓銀のあとの空き家が多い、生協の問題だとか、あのようなところでもし空いた場合に、将来的にどのように張り付くのかということ、どのように頭に中に入れていくのかというのが第一点。基本中の基本で申し訳ないが、ちょっとそれを疑問に思っている。</p> <p>それから、学校が変わるということで、遠距離通学しなければならぬ生徒が出ると思うが、その場合にバスの利用は許されると思う。バスの路線のことまでも考えにいれて、こういうことを考えていらっしゃるのか、その点、基本中の基本で申し訳ないが、疑問に思ったので、お答えいただきたいと思う。</p>	<p>バスの関係について、統合されると距離が遠くなる。その場合のバス助成についてだが、今小樽市内には400人程のバス通学者がいる。小学校、中学校でスクールバス、路線バスを利用して通学をしている子どもがいる。中学生は部活があり帰りの時間が一定しないということで、路線バスを利用している人に対して定期代の助成を行っている。その中で現在の制度としては、中学生については、全体の距離で3キロ以上、その中でバス乗車区間が半分の1.5キロ以上の場合に対象になっている。今回のプランを見ていただくと分かるが、現在の制度に当てはめた場合、対象になるのは、西陵中の校区ではプラン1、プラン2、プラン3がある。統合校をどこに置くかにもよるが、具体的に見ていくと、プラン1の場合、先程、松ヶ枝中学校を最上小学校にという話があったが、そうなる、一番遠いところが②③となる。そこからは最上小へ3.9キロとなり約4キロの距離になるからこの場合だと、距離的にバス助成の対象になる。ここからは、最上線、天狗山線の辺りになるので、②③の位置から小樽駅前を経由して来るということになる。現在の制度に当てはめると3キロに満たなければ、徒歩通学ということになる。</p> <p>ある意味難しい課題で、どこの懇談会でも今のようなご意見はいただいている。実は私は、ここの富岡小学校の出身で、ここの中学校にも途中までいたことがある。その時には1学年10クラスあって1,800人くらいの生徒がいた。確かに、地域での学校は、一つの核になっているのは事実。中央・山手地区で言えば、隣の菁園中学校とも2キロも離れていない、わりとたくさん学校はある。ただ、蘭島方面や忍路方面、豊倉や張碓では、本当に学校が地域の核になっている。私どもが考えなければならぬのは、教育環境という中で、忍路中学校の3年生は2人しかいないという現状だ。学校全部で15人くらい、中学校で複式学級になっている。そこだけの特微的に言うつもりはないが、わりと中心部にある北手宮小学校も現在複式になっている。今年小学校1年生になった子どもは、平成16年生まれで、その時には950人くらいの子どもが生まれている。去年1年間に小樽市内で生まれた子どもは735人。寂しい話ではあるがこの少子化は続いている。この校区の稲穂小学校は1学年2クラスあるが、緑も最上もほとんど1クラス。その1クラスもこの間までは、30人前後、25、6人いたのが20人を切っていくという状況はそれほど遠くない時期にきてしまう。その意味ではやはり学校再編というものはしていかなければならない。だから、地域にとっての学校の位置もあるが、では果たしてこのまま市内41校を持ち続けていくことにはならないと思っている。ただその中で、それぞれの学校に歴史はある、思いがあるというのは十分に教育委員会でも理解をしている、そういう話はさせていただくが、現状は現状としてご理解をいただきたいと思う。</p> <p>私どもも今回の考え方は、ここの学校が小さいから統合しようということではなく、この地区で新しい学校を作っていこうという議論をぜひさせていただきたいと思っている。実は、中央・山手地区のこの3校は、平成13年に実施した学校再編のほとんどが受け入れ校だった。東山、住吉、石山なので一番受けたのは菁園だった。今でも菁園は、3学級から4学級を維持している。確かに特認も多いが、ここも、その時期には9学級になった。それから、末広も石山との関係で9学級になった。ただ、それからまだ十年経っていないが、もう6学級、7学級という形になっている。私どもが今回示した資料も、平成27年に一昨年生まれた子どもが小学校1年生になる頃には、小樽の学校がどのような規模になるかをベースにして今の計画を作っていることをご理解いただいて、気持ちは分かるが地域への影響だけを軸には小樽市内の小中学校の現状から、そこだけでは議論ができないと思う。もちろんそういう話はしていかなければならないと思うが、そこだけではなかなか教育委員会としても、学校のあり方を見る視点としては、この少子化の中でどうしていくのかも一つの大きな観点にしていかなければならないと思う。</p>

中央・山手ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
西陵中	<p>3 空き地が多いので、将来的にどのような考え方をしているのかという部分を含めて決めていただきたいと考えている。</p>	<p>皆さん地元の方なのでご存知だと思う。何年前に日銀が所有地を売るという話があって、背の高い建物を建てられては困ると付近住民から出されて、日銀もちろん協力してくれたが、地区計画を作って、高さ制限をした都市計画上の整理が終えた。それが終わったので日銀も売ることができるようになったと思う。</p>
	<p>4 (提言) 改めて見たときに、市の方で最低一つの中学校は何人にしたいのか、実はこの資料をいろいろ見たら、西陵、菁園、松ヶ枝のこの区域を三つに、この区域ではなく、だいたい240人くらいになるような区域に分けるとちょうど良い。それこそ、3.9キロとかとんでもなく遠いところから来る必要はない。さきほど、バスの心配もされていたが、実際問題、西陵の端から松ヶ枝中、最上に行くとなると相当バスに乗っていかなければならない。逆に西陵の近くから、近いから歩いて行きなさいといっても、一回下に降りなければならない。じゃあ、それはどうなのか、直線的な距離しか見ていないので、山という部分ではおかしいのではないかというもある。だから、今ある区域を三等分に分ければちゃんと収まっていくのではないか。先ほど町会の方も話していたが、もしかしたらここは人が増えるかもしれない。じゃその時どうするの。やっぱり遠いところへ行くのか、画一的に。全然関係ない話だったような話だったが、本当に、ここに色々な建物が空き地に建った場合に、そこに人が入ってくる。駅も近い。そういう場合に、人口が増えた場合にどうするのか。また慌てて再編しますか、という部分のような気がした。聞きながら。ですから、一生懸命これ作っていただいたのは分かるし、そういうふうに分ければ素人的に見れば、良いのではないかというのと、あと、プラン4のBグループの緑地区、緑の部分、それからからまつ公園の上には家はない。天狗山の上にも家はない。ものすごく広く感じる部分で、何か見て違和感がある。確かに区域としては、区域なんだろうが、実際人がいる区域で分けていただいた方が見やすいというもある。そういうことも考えていただいたらどうか。</p> <p>あと、小学校の再編を先にやるということで、その中でまた変わっていくのですが、国道5号線を境に危険だからというのは、もうそんな話では、小学生みんなあそこを通っていつているので、こういうのはあまり言わない方が良いのではないかと思う。それよりも、臨港線の方が危険なので、そっちの方の部分で色々考えていくというのは無きにしもあらずで。なんか区域が分からない。あまりにも切ったり、足したり。それよりも綺麗に等分した方が良いのではないかというのが素直な意見です。それをどう等分しても、稲穂小学校でうちの中学校でもそうですけれども、やはり中学校が良いということで来る方がいる。先ほど稲穂小学校の話があったが、稲穂小学校には50人が行っているという話があった。20人がどこか違うところに行っているという話もあったが、差を見ても30人が行っている。違う区域から。と考えると、こういったプランを作っても、やはり行きたい小学校や中学校に行くこともある程度、10人とか、十何人とか視野に入れておかないと、実際に三百何人になりました、改築しなくても良いですよ、蓋あけたら400人になりました。改築しなければ駄目。となるとおかしな話になっていくので、これから何回も何回も検討しながら、やっていくと思うが、そういう細かいところも見えていただけたら、ありがたい。</p>	

中央・山手ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
西陵中	<p>5</p> <p>西陵中学校は比較的新しい学校で、何かもったいないと、正直思った。小樽駅から歩いて通える学校としてもこしかないだろう、まだまだ使える学校、うちの子もこの環境が、山の中だけれども、すごく気に入っている。なにしろ自校給食がすごく美味しいと話している。だから、ぜひ、残してほしいというのが率直な私の考えで、一応意見として言わせていただく。</p>	<p>意見としていただく。一つだけ、学校を残すとか、学校を潰すとかという発想ではないと分かっていたらいいと思うが、このブロックで子どもの数や施設の状況を考えた時に、どういう通学区域を作って、そして、小学校とのスムーズな連携を考えながら、それを考えればどこに新しい通学域を作って統合して、そこを統合校として使って、必要があれば改築をして、ブロックによっては建て替えということもあるかもしれないが、そのようなことを考えていくという発想だということをお願いをしたい。</p>
菁園中 6月17日	<p>1</p> <p>中学校は3校が2校になると聞いていたが、松ヶ枝中学校の今の校舎を最上小学校に引越したら、西陵中学校はどうなるのか。</p>	<p>この中央・山手地区は、小学校先行、でも松ヶ枝はやらなければならない。小学校が一定程度おさまってから、中学校をやるというのは、文字どおりそのとおり。当面は、こどもそうだが、西陵も残る。3年後4年後に無くなるとは考えていない。小学校の再編には一定程度時間かかるので。2～3年で出来るとは思っていない。ただ、松ヶ枝中は今のまま放っておくことはできない。この地区の中学校の3校は、小学校の目処がついてから中学校をやるということ。松ヶ枝中を最上におろす時に、西陵も一緒にするのかという疑問と思うが、教育委員会ではそのように考えてはいない。</p>
	<p>2</p> <p>ちょっと分かりにくいのではっきり言ったほうが良いと思う。15ページには、◆で「以上の検討の結果」というのが書いてあるが、結果的に中学校3校を2校にするのはどうなるかといえば、松ヶ枝中学校を最上小学校の後に移転させて、ここで一つ。その結果、その後、現在の菁園中学校が適切だというのが書いてあるので、菁園と松ヶ枝中学校の最上小学校地域に移行した学校のこの二つでやるということだから、西陵中学校は無くなる。こういうふうに取り取れるが、こう言わないと今質問した方の意味が分からないのではと思うが、そのように説明した方が良いのではないかと。</p>	<p>今、私の方で考えたのは、いつのタイミング、どういう年次でやるのかということに力点があったと思っていたので、具体的に統合校の位置ということで、プランの中で示しているが、それはまた後段の話と考えてそのような話をした。今話があったことについては、15ページの最後の方でそういう意味合いで書いて、まとめという形でプランの中で示している。</p> <p>今、言われた部分で、あえて小学校で一定落ち着きを見せてからと、考え方としてはそのように書いている。ただ、これを前提として、こういう言い方であるのは、最上と緑とが再編をして校舎を緑小学校で良しということができないと、松ヶ枝中学校を最上小学校に持ってくることはできない。だから方向的には、教育委員会はそう考えている。ただその前段、色々なことをしなければならぬものだから、そういうことがあって先程言った松ヶ枝中学校と小学校のことが前提にあって、それからもう1回考えよう。そういう言い方をしている。歯がゆい、ある意味訳が分からないという部分があるかも知れないが、現実的な手立てとしてはそういう手順を踏んでいかなければならない。それで先程申し上げた、例えば、今日お示しているプラン3の部分、これも色内小学校の部分、小学校再編でどのようになっていくかも大きな要件になっていくと思う。実は今日、中央・山手地区での懇談会は、色内に続いて2か所目でまだ七つ残っている。私どもとしては、どこへいってもこのような説明をするが、一当たりしてご意見を聞いて、正直に言って、ここは菁園中学校なので、どのプランの中でも菁園中学校を残すことが適切という判断を入れているので、それ程のご意見は出ないだろうと思っている。ただこれが、松ヶ枝中学校や最上小学校、緑小学校では相当な意見が出るので、まずは7月22日まで、懇談会をやっているの、一当たり、当たってどこから積み上げていけるのかというところは、ご理解をいただきたい。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
菁園中	<p>話を伺っていると、この中学校は残るだろう、というのが前提で、ご安心でしょうという感じだが、どの中学校になろうとも、実際菁園中学校は、校舎自体も新しいというのは分かるが、ここの学校に入ってきてのメリット、今回の変わったことに対して何か菁園中学校に対して、良くなったことのようなものが全然見受けられない。例えば市内の中学校の中で、この菁園中学校は猫の額のようなグラウンドしかない、どの中学校に比べても、手狭でやっている。そういう中でこれから全市の中学校を少なくして、さらに子どもたちを大人数の中で、切磋琢磨させて、例えば部活動なりをさせていこうという考えを持っているのであれば、より一層、小学校とは違い、中学生が伸び伸びとしていけるような現場作りが必要ではないか。菁園中学校は、建物自体は新しいかもしれないが、全体の中で子どもたちはまだ物足りなさを感じているのではないかと思う。それを今後どのように変えていっていただけるのか。実際にこの学校に入学してくる子どもたちにどんなメリットが今回の統合によって現れるのかお聞きしたい。</p>	<p>今いただいた意見の中で学校施設の問題は、確かにここの学校、昨年までの説明会の意見の中でたくさん出ているのは事実。ただ一つは、子どもさんたち、平均的には、30人くらいの数になるということで書いているが、多くの子どもさんたちの中で、それぞれ交友関係ができてくるというのが一つあるかと思う。学校全体で考えると、財政的な面での話をして申し訳ないが、例えば全体に集約することによって、一つの学校に対して、お金の部分、そういう部分でも手厚くできていくことは考えられると思う。実際にそのとおりできるかはあるが、そのようなことも一つのメリットとして考えられる。子どもさんたちに対して、そういうこととしていけるということは、一定あると考える。</p> <p>なかなか難しいことだと思う。ご承知のとおり、平成13年に菁園を統合校にして東山中学校と住吉中学校が統合して、改築しますということで、その時にも議論になった。今、言われたとおり、中学校のグラウンドの広さは部活との関係から、相当大きな要素になっているのは、どの学校からも伺っている。ただ現状ここは、3,000㎡で小樽市内の中学校では一番小さい。今度の学校再編するのにそれも一つの条件だが、それだけでともならない。現実的に今、余っている土地が云々ということからしても、ここのグラウンドを広げるということはなかなか難しい部分はある。それからどこまで可能かという問題はあるが、ここを改築するときに、一時期、今、教育委員会のある東山中学校のグラウンドを授業にも使っていた。それ以来使っていないので、荒れていて、あのまま使えということにはならないが、きちんと整備をして学校グラウンドとして使えるようにして、当然この先菁園中学校を統合校として使うということになれば、今すぐということではなく、将来的には、他の校区から来るということはある訳だからそのことも校長と話をして授業のために、この山をわざわざ登って行く必要はないかもしれないが、具体的にいうと、野球部、サッカー部がそれなりのスペースを使ってやるという部分が、もし可能だということであれば検討してみたい。だから今言われたメリットと言われればどうかということもあるが、現実的に問題があるという中では検討していかなければならないことだと思っている。</p>
4	<p>先程緑小学校を建て替えると言っていたが、どこに建てるのか。緑小学校の今の場所に建てるのか。例えばそれが可能であれば、今の松ヶ枝中学校のところに、建て直すということも可能なのではないか。なぜそういうことを言うかという、緑小学校の敷地は狭いのではないか。緑小学校、花園と稲穂というのは非常に小さな三角形の地区だから、ここにまた建てる、稲穂、花園との兼ね合いを考えたら、最上小学校はそのまま残して松ヶ枝中学校を建て替えた方が良いのではないかと思う。そうすると、向陽の天神部分からも松ヶ枝に来られる人も出てくるだろう、将来的には、西陵、色内地区は、石山の末広中学校区という形にはしやすいのではないかと思う。またさっき前の方が質問されていた菁園中のことだが、例えば花園小学校を東山に持っていった場合、ここのグラウンドは確保されるのではないかと思う。それで最上小学校をそのままにしておけば、東山で緑の子たち、入船の子も来やすいのではと思うが、なぜ松ヶ枝中学校は土地、面積とも十分あるのに、狭い緑小学校を建て直さなければならないのか、疑問だ。狭い土地に建て直すことについてどう考えているのか。</p>	<p>一つのプランとしては、持っている。</p>
5	<p>だったら松ヶ枝中学校自体を建て直すことはできないのか。</p>	<p>それで最上小学校を統合校にするということか。</p> <p>ここ菁園はどのようになるか。菁園を無くすということか。今の松ヶ枝は、そのまま新しい松ヶ枝中学校になり、菁園を残して西陵を菁園におくということか。</p>

中央・山手ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
菁園中	6 まず聞きたいのは、なぜ狭い土地の緑小学校に建てるのか。	質問ということか。新しいプランの提案をしてくれるのかと思った。
7	そこで出てくると思うが、プランとして、松ヶ枝中学校の現状の位置に建て替えることによって、向陽中学が無くなり、松ヶ枝中学校に行った方が近いという人もいるかと思うが、松ヶ枝中学校の敷地も十分に使えるし、あわせて提案だが、花園小学校を移すことによって・・・	そうすると今の教育委員会庁舎を小学校として再生する。そうすると、今の教育庁舎のグラウンドも一つの学校のグラウンドとしては広くはないが。
8	8 今の花園小学校のグラウンドよりは広いのではないか。	今面積に関するデータがないので。 大きいと思う。
9	9 土地も形がある程度四角いので使いやすいと思う。小さいというのであれば中学校の部活にはなおさら使えない。幾ら二つグラウンドがあっても、小さいのが2か所あっても使い道がなく、実質的に使えないグラウンドになると思う。そう考えると小学校を移し変えた方が今後の中学校生活には良いのかと思う。	提言としてお聞きする。
10	10 もう一つ付け加えると、これは個人の意見ではなく、菁園中学校の今のサッカー部の子たち、OBの子たちの意見でもある。	今日、小学校の再編プランも出しているが、「適切」という言葉で先程の松ヶ枝中、緑小、最上小の部分について言ったが、プランとして今言われた松ヶ枝中を残した場合、最上小を残した場合、というのも考え方としては入れている。ただ、私ども、今までの話し合いの中で、去年も基本計画の話し合いをした、一昨年は、「考え方」を示して中学校14か所で懇談会をやったが、過去2回とも松ヶ枝中学校の説明会では、「やはりここは通学には大変だ。」という意見が、今通われている方から相当強く出されていた。あそこは冬通うのは本当に大変だ。通りから門を入れて、通る道は、冬場はものすごく大変で、実は、雪が降る前に砂を2トン程運んでおいて、毎朝近所の方にその期間だけお願いをして朝に砂をまいてもらって何とかやっているという状況がある。だから私どもも最上小学校を松ヶ枝中学校にする、小学校を緑にするとした時に、現実的にはからまつ公園の方から通ってくる児童は相当距離があるが、この後、最上小学校と松ヶ枝中学校でも懇談会を行う。そこで十分話し合いを、もちろん緑でもやるが、していかなければならないと思う。ただ言われたように、緑小学校のグラウンドは決して広くはない。小学校でも3,500㎡くらいはほしい、運動会でも、ここのグラウンドは3,000㎡、だからそれも含めて伺っていきたいと思っている。ただ、言われたように今まで何回も説明会をしてきた中では、松ヶ枝中学校をまた新しく建てて、1回学校を建てると、40年、50年使っていく、そういったところとして松ヶ枝中学校にもう一度建てるということは、現状では、教育委員会としてはそうすべきではないと思っている。ただ先程の意見を全部否定するつもりはない、ここの懇談会で一つのご意見があったということでお聞きする。  今、松ヶ枝中の話をしたが、松ヶ枝中の自然環境は正直小樽市内でも幾つもあるが1、2を争う、自然環境、雪だが、なかなか厳しいところは実際問題としてある。 そういったこともこのプランの中では書けないが、そういったことも念頭に置いておくことを含んでおいてほしい。

中央・山手ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
菁園中	<p>11 緑小学校を建て替えた時に、グラウンドを3,500㎡はほしいと言っていたが、それは確保できるのか。</p>	<p>これについては建築の方とも、私どもがこういうプランを作るときに、もちろん、基本設計とか実施設計をきちんとやらなければ、正確には出ないが、校舎を4階にするとか、そういった部分を含めて考えれば、不可能ではない。その際、大きな土木工事は出てくるが。だから、緑小学校で懇談をするときに、その辺を含めて話をしなければならぬと思っている。一回休校にして、更地にして建て直すとりと建てやすい、そういうことが可能なのか、そのようなことも頭にはある。簡単にいうと、一回最上に行ってもらおう。それで緑を建て直して、緑に戻して、松ヶ枝をおろす。色々なことを考えなければならぬと思う。2、3年大変でも、きちんと建てて、何十年と使う建物だからそういうことも議論をしていかなければならない。</p>
	<p>12 もちろんそうだ。それは長い目で見れば良いことだが、ただそこにぶつかる子の親はそうはいかないと思う。ちょうど6年生で修学旅行を迎えるのにか、全員そのまま緑小学校の。</p>	<p>だからそういうことも含めて、具体的なプランというか、バリエーションが幾つかある中で、皆さんとお話をしながら選択をしていこうということ。事例で言えば、今函館や室蘭でこういった再編をやっている。統合を先に決めて、そして、校舎を新しく建て替える場合は、先に統合を決めて、一回部長が先程例に挙げたような、もう一つの学校に行き、そして自由な設計でフレキシブルな配置を考えながらやっていく。そのような形でやっているところもあるので、色々な場面で、色々な形での研究はより具体的になる段階で、ある意味、これはもう向こう50年の学校の配置の計画だから、皆さんと意見を交わしてやっていきたいと思っている。</p>
	<p>13 東山を使うのも、一つの案として聞いていただけるのか。</p>	<p>前にも、言われたのを記憶しているが、考えていただきたいのは、基本的には今ある学校施設を活用して再編を行うのを一つの前提として置いている。他の会場からも、公園に学校を建てたらどうか、という意見もいただいているが、なかなかそれが難しい、公園は公園の意味というのがある。確かに今の東山は私どもしか入っていない。教育委員会は適当なところがあれば、どこへいっても良いと思っている。</p> <p>ご理解いただきたいのは、ご承知のとおり1階は全部福祉部の施設で、子ども発達支援センターという施設になっていて、今、120～130人の子どもさんが登録され、療育を受けに毎日通って来ている。それから適応指導教室、要するに「ふれあい教室」不登校という形になっているお子さんの教室を持っている。それもあそこでやっている。だから、あそこは教育委員会がなくて事務職の人間ばかりということではなく、東山に教育委員会が移ってから何年か経っていく中で、あれだけの器があるのだから、色々な用途に使っているのは事実。そうなれば、毎日全部の子どもが通っているわけではないが、発達支援センターは曜日を決めて、20人とか30人が曜日を決めて来ている施設なので、ここを学校に戻すから出て行ってください、ということにもなかなかならない。そういうことも含めて、私どもとしては基本的には、今ある41校の学校施設をもちろん建て替えや改修はあるが、それを活用してこの学校再編を進めていきたい、ということが基本的な考え方だ。</p>

中央・山手ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
菁園中	14 校名についてはどうなるのか。	<p>今日お配りしている青いペーパーの左側に統合が決まったとのスケジュールで協議していくことを下の方に書かせていただいた。統合が決まったということでその先に2年程度かけてということで、色々な準備をしていくことを書いている。この中に、五つ目のところに、校名、校歌の設定について統合協議会を作った中で、皆さんで議論していきましょう。そういうようなことでここに書かせていただいた。要はこれまでであった学校を吸収だとかそういうことではなく、今回は学校の再編ということを前提にしているので、2校ないし3校の皆さんが集まって、新しい学校を作っていくという主旨でやっているの中で、その中で、こういうことを協議して行っていただきたい、ということを考えている。</p>
	15 校名だけではなく、制服も当然変わると思うが、例えば、3年生の時に制服は変わった場合制服の購入費について、助成は市が行うのか。	<p>「統合が決まりました。それではここは2学期から制服が変わります。」という話にはならない。何年か前に統合が決まるので、統合が決まった段階で、制服、標準服をどうするかという議論が始まっていくので、そういった中で、時間的余裕の中で、ではどうするか、という話し合いになると思う。</p> <p>この菁園が東山の受け入れ校になった時も、違う制服でくる訳だが、それは良しとしようという話になった。もし、これが今言ったように統合校が決まる。統合の準備に向けて2年、3年の議論が必要という中の一つの議論に制服のことも出てくると思う。それから、校名とか、そうしたらこの学校の制服に決めようというのではなく、新しい制服も考えよう、という議論があっても良いと思う。ただそれまではそれぞれの学校の制服を着ていよう、それで良いのではないかと思っている。</p>
	16 それでは私服の学校と制服の学校もある。	<p>今、私服は向陽だけ。</p> <p>その辺のところは、今確定されないと思うので、これからの具体的な統合準備の話になると思う。</p> <p>逆にいうとその部分は教育委員会が、ああしろこうしろ、というのではなく、青いリーフレットにも書いているように、是非その地区、地区で統合協議会というのもぜひ作っていただきたい、ということも書いている。その中で色々な議論をしていただく、教育委員会としてはそのようなスタンスだ。</p> <p>建物はそのままかもしれないが、気持ちは新しい学校ということだから、新しい学校作りの中に子どもの意見、制服を考えるとときにいくつかの候補から子どものアンケートをとって、それを決める時の参考にするとか、そういった形も考えられると思う。</p>